

令和2年 7 月 28 日

呉市教科用図書選定委員会委員長 様

呉市教科用図書調査・研究委員会

種目 音楽(一般)

代表者 昭和代 中学校

氏名 泉谷正則

呉市教科用図書調査・研究報告書について (報告)

このことについては、別添のとおりです。

【音楽（一般）】

観 点	基礎・基本の定着
視 点	①題材や学習目標等の示し方
方 法	○題材・学習目標の表記の仕方及び学習目標達成のための支援の具体例

発行者	調査・研究内容
教出	<p>【題材・学習目標の表記の仕方】</p> <p>○目次のページの次に「学びのユニット」というコーナーがあり、それぞれの題材を扱う際の学びのねらい、扱う主要教材となる楽曲や活動内容、比較しながら学習を深めるための他の楽曲などを示している。さらに、その題材を扱う上で音楽を形づくっているどの要素を重点的に学ぶことができるかを配色の濃淡で示している。</p> <p>○学習目標は、各教材のページの左右端に縦書きで「学びのポイント」として示しており、その下には「(⇔) 比べてみよう」「(+) 深めてみよう」の表記とともに、マークや関連する教材が掲載されたページを示している。</p> <p>【学習目標達成のための支援の具体例】</p> <p><具体例> 音楽2・3上「交響曲第5番 ハ短調 作品67」(P.34~38)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習目標は「曲想と音楽の構成を関わらせて味わいながら鑑賞しよう。」「ソナタ形式やフーガなどによる曲の構成を聴き取ろう。」の2点で、最初の記述では『交響曲第5番』は、全ての楽章が、『タタター』(楽譜で表記)というリズムの動機に基づいて音楽がつくられています。このリズムが各楽章でどのように現れるのかを、オーケストラによる豊かな表現とともに聴き取ってみましょう。」と示している。 ・第1楽章では、ソナタ形式の各部分〔提示部・展開部・再現部・コーダ(終結部)〕を解説しながら、一部の楽譜を示し、リズムの動機の部分を色で囲んで示している。また、続くページ(P.35)では、第2楽章~第4楽章の冒頭部分の楽譜を示し、それぞれの楽章に現れるリズムの動機が、どのように変化・発展しているかを記述で説明している。さらに、次のページ(P.36~37)では、第1楽章の提示部の全ての部分を簡略譜(総譜を2段にまとめて示したもの)に構成して載せている。 ・「比べてみよう」では、「小フーガ ト短調」(P.39)を取り上げて、形式を比較しそれぞれのよさについて発表したり交流したりする活動を示している。「深めてみよう」では、「交響組曲『シェエラザード』から第2楽章」(P.58)を取り上げて、楽曲構成を比較したり、オーケストラの表現の豊かさについて考えたりする活動を示している。 ・巻頭の「作者の思いにふれる」(口絵②)では、ハイリゲンシュタットの遺書をもとに創作された物語として、ベートーヴェンの苦悩や音楽への思いなどを記述している。 ・最後のページ(P.38)には、交響曲(シンフォニー)についての解説があり、写真でオーケストラを紹介している。さらに「オーケストラの配置の例」として、オーケストラの楽器郡の配置がわかるよう図で示している。巻末(口絵③、④)では、学習資料として弦楽器・木管楽器・金管楽器・打楽器ごとに18種類の楽器の写真を演奏者と共に掲載しており、各楽器をどのように持ち、どのように構えて演奏するのかがわかるようになっている。

【題材・学習目標の表記の仕方】

- 目次のページの次に「学習内容」のページがあり、表現領域（歌唱と創作）と鑑賞領域において、思考力・判断力・表現力、知識、技能という三つの資質・能力と対応している学習内容や教材を図示している。その上で、各題材を扱う際に図中のどの項目を重点的に学習させるのかを色の濃さで表している。
- 学習目標は、各教材のページの左右端に縦書きで示しており、その下には音楽を形づくっている要素のうち、どの要素を重点的に学ぶかについて複数列記している。

【学習目標達成のための支援の具体例】

<具体例> 音楽2・3上「交響曲第5番 ハ短調」(P.44～51)

- ・学習目標は「曲の構成に注目しながら、曲想の変化を味わおう。」となっており、最初の記述では「動機の繰り返しや変化に注目しながら、音楽のよさや美しさを味わって聴きましょう。」「オーケストラの豊かな響きを感じ取りながら聴きましょう。」という2つの活動文を示している。また、音楽を形づくっている要素については、音色、リズム、旋律、形式、構成について学習できると示している。
 - ・第1楽章ではソナタ形式の各部分（提示部・展開部・再現部・コーダ）の全てにわたって冒頭の楽譜を提示し、動機の音型の部分を色で囲んで示している。提示部が通常繰り返して演奏されることにもふれている。続くページ（P.46）では、第2楽章～第4楽章について形式を明記し、第1主題・第2主題をそれぞれ楽譜で示し、動機と似たリズムの部分を色で囲んでいる。第4楽章が、第3楽章から切れ目なく演奏されることについてもふれている。
 - ・「Challenge!!」（P.47）のコーナーでは、「演奏者による表現の違いを聴き比べてみましょう。」とあり、指揮者やオーケストラによって速度やリズムの表現の仕方、音色などに違いがあることに気付かせるよう示している。
 - ・続くページ（P.48～49）では、「オーケストラの演奏」として見開き上段部分に写真でオーケストラを紹介している。また、オーケストラの写真の下に木管楽器・金管楽器・弦楽器・打楽器それぞれの楽器群ごとに、14種類の楽器の写真を演奏者と共に掲載しており、各楽器をどのように持ち、どのように構えて演奏するのがわかるようになっている。
 - ・さらに、続きのページには「指揮をしてみよう！」（P.50～51）という項目で、2ページにわたり指揮のポイントを示しており「音楽を指揮で表現して、より豊かな音楽活動につなげよう。」と記述している。手順①では『交響曲第5番 ハ短調』を聴こう。」手順②では「冒頭部分の指揮をしよう。」と記述しており、友達の指揮に合わせて、冒頭のリズムを手拍子で打ったり、言葉を付けて歌ったりする活動を示している。手順③では「提示部を聴きながら指揮をしよう。」として、動機の音型や「注目するポイント」（リズム・旋律・強弱・構成）に気を付けながら、第1主題と第2主題の違いを感じ取るよう示している。その下には、プロの指揮者の言葉を載せ、「交響曲第5番」の指揮のポイントを示している。
- 最後のページ（P.51）には、Warming up「演奏する人が次の拍のタイミングを予測できるようにしよう。」として写真や図を用いて、指揮のポイントが示され、Point 1「拍子を明確に示そう。」Point 2「予備拍を振って、出だしのタイミングをはっきりと示そう。」Point 3「強弱の変化に合った振り方をしよう。」Point 4「曲想を感じ取り、振り方を工夫しよう。」Point 5「曲想や歌詞の雰囲気を体全体で伝えよう。」など項目ごとに細かく解説している。

【音楽（一般）】

観 点	基礎・基本の定着
視 点	②歌唱の基礎・基本の定着を図るための工夫
方 法	○歌唱の技能に関する記載及びその具体例，歌唱共通教材の構成と扱う学年

発行者	調査・研究内容
教出	<p>【歌唱の技能に関する記載及びその具体例】</p> <p>○全学年を通して「Let's Sing!」という項目を設け、歌うためのワンポイント・アドバイスを示している。</p> <p><具体例></p> <p>音楽1では「歌うための準備」(P.12~13)では、歌うための姿勢、息のコントロール、母音の発音について、「言葉の発音について」(P.19)では、鼻濁音について、「変声と混声合唱」(P.24~25)では、変声(声がわり)、楽譜の見方、混声三部と混声四部のパート、声部の役割などについて説明している。音楽2・3上では「旋律のまとまり」(P.19)として、「浜辺の歌」と「早春賦」を用いて、二部形式について解説した上で、形式を生かした表現の工夫を互いに交流することを促し、音楽2・3下では「フレーズと形式」(P.19)として、「花」と「荒城の月」を用いて、七五調について説明し、歌詞のまとまりと音楽の関係を理解して歌唱するように促している。</p> <p>【歌唱共通教材の構成と扱う学年】</p> <p>音楽1で「夏の思い出」「赤とんぼ」を、音楽2・3上では「浜辺の歌」「早春賦」そして「花の街」を、音楽2・3下では「花」「荒城の月」を取り上げている。各学年とも「日本の歌 みんなの歌」として歌唱共通教材を連続して示しており、それぞれに学びのポイント、歌詞、関連する写真、作者の言葉、紹介文などを載せている。各学年の巻頭の見開き(口絵①)で、1~2曲を取り上げている。</p>
教芸	<p>【歌唱の技能に関する記載及びその具体例】</p> <p>○全学年を通して「My Voice!」という項目を設け、発達段階に応じて歌唱技能のポイントや注意点を示している。</p> <p><具体例></p> <p>音楽1では「自分の歌声を見つけよう」(P.14~15)では、準備(姿勢と呼吸)について及び歌声づくりについて説明している。特に、声の出る仕組みについては声帯が振動するイメージなどを2つの図を用いて説明している。また「変声期」(P.20)では、「変声期に歌声はどうなるの?」「どうして声を出しづらいの?」などの見出しで解説し、変声期に心がけることについて示している。音楽2・3上では「自分の思いを歌声にのせよう」(P.17)としてスムーズな息の流れに歌声をのせるためのポイントを、「鼻濁音」(P.23)として鼻濁音を使った柔らかな響きを出すポイントを示している。音楽2・3下では「豊かな歌声で、気持ちをこめて歌おう」(P.19)として姿勢と呼吸、息の流れ、響かせ方などを確認するよう促している。</p> <p>【歌唱共通教材の構成と扱う学年】</p> <p>音楽1で「浜辺の歌」「赤とんぼ」を、音楽2・3上では「夏の思い出」「荒城の月」を、音楽2・3下では「花」「花の街」「早春賦」を取り上げている。各学年とも「心の歌」として歌唱共通教材を連続して示しており、学習目標、活動内容、歌詞、作者の写真、紹介文などを載せている。</p>

【音楽（一般）】

観 点	基礎・基本の定着
視 点	③創作の基礎・基本の定着を図るための工夫
方 法	○創作の題材の取り上げ方, 題材名, 指導事項, 創作の題材構成の具体例

発行者	調査・研究内容																		
教出	<p>【創作の題材の取り上げ方】</p> <p>○「音のスケッチ」として, 各学年2つずつの活動を取り上げている。</p> <p>【題材名, 指導事項】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>題材名</th> <th>指導事項</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">1</td> <td>日本語の抑揚を生かした旋律をつくろう (P. 32~33)</td> <td>音のつながり方の特徴</td> </tr> <tr> <td>全体の構成を考えながら音楽をつくろう (P. 34~35)</td> <td>構成上の特徴</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">2・3上</td> <td>リズムパターンをつくろう (P. 26~27)</td> <td>構成上の特徴</td> </tr> <tr> <td>平調子の特徴を生かして音楽をつくろう (P. 28~29)</td> <td>音のつながり方の特徴</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">2・3下</td> <td>言葉のリズムや抑揚を生かして表現してみよう (P. 22~23)</td> <td>音のつながり方の特徴</td> </tr> <tr> <td>CMソングをつくろう (P. 24~25)</td> <td>構成上の特徴</td> </tr> </tbody> </table> <p>【創作の題材構成の具体例】</p> <p>○全ての活動において例を示しており, 例を参考に活動ごとに書き込みができるようになっている。</p> <p>○全ての題材で, 作品の発表や意見交流などの協働的な学習を取り入れている。</p> <p>○活動の終末では, 「チャレンジ」(音楽1P. 33) や「もっと楽しもう」(音楽2・3上 P. 27, P. 29) で, 音の数を増やしたり, 既習曲に合う作品を作ったりする等の発展的な活動を掲載している。</p> <p>○音楽1の旋律の創作の題材 (P. 32~33) では, 3つの音を当てはめ, 2小節の旋律を創作する活動を示している。</p> <p>○音楽2・3上のリズムの創作の題材 (P. 26~27) では, 八分音符からいくつかのリズムをつくり, 16小節のリズムパターンを創作する活動を示している。</p> <p>○音楽2・3下の旋律の創作の題材 (P. 24~25) では, 三音または五音を当てはめて2パターンの旋律をつくり, それを繰り返してCMソングを創作する活動を示している。</p> <p><具体例></p> <p>音楽1「日本の抑揚を生かした旋律をつくろう」(P. 32~33)</p> <p>学習目標 「言葉のつながり方を工夫して, 短い旋律をつくろう。」 「言葉のリズムやまとまりを意識して, イメージに合う音を選ぼう。」</p> <p>共通事項 構成・音色・リズム・旋律</p> <p>①七五調の歌詞を作る→②言葉の抑揚を考える→③ミ・ソ・ラの音をあてはめる</p> <p>音楽2・3上「リズムパターンをつくろう」(P. 26~27)</p> <p>学習目標 「リズムの組み合わせや反復を工夫して, リズムパターンをつくろう。」 「音符のつなげ方によるリズムの違いを理解して, つなげる音符を選ぼう。」</p>	学年	題材名	指導事項	1	日本語の抑揚を生かした旋律をつくろう (P. 32~33)	音のつながり方の特徴	全体の構成を考えながら音楽をつくろう (P. 34~35)	構成上の特徴	2・3上	リズムパターンをつくろう (P. 26~27)	構成上の特徴	平調子の特徴を生かして音楽をつくろう (P. 28~29)	音のつながり方の特徴	2・3下	言葉のリズムや抑揚を生かして表現してみよう (P. 22~23)	音のつながり方の特徴	CMソングをつくろう (P. 24~25)	構成上の特徴
	学年	題材名	指導事項																
	1	日本語の抑揚を生かした旋律をつくろう (P. 32~33)	音のつながり方の特徴																
		全体の構成を考えながら音楽をつくろう (P. 34~35)	構成上の特徴																
	2・3上	リズムパターンをつくろう (P. 26~27)	構成上の特徴																
		平調子の特徴を生かして音楽をつくろう (P. 28~29)	音のつながり方の特徴																
	2・3下	言葉のリズムや抑揚を生かして表現してみよう (P. 22~23)	音のつながり方の特徴																
		CMソングをつくろう (P. 24~25)	構成上の特徴																

<p>教出</p>	<p>共通事項 構成・リズム・テクスチャ・旋律</p> <p>①8分音符をつないでリズムを変化させる→②リズムを繰り返したり、組み合わせたりする→③「オーラ・リー」に合いそうなリズムを3種類つくる→④「オーラ・リー」にふさわしい16小節のリズムパターンをつくり演奏する</p> <p>音楽2・3下「CMソングをつくろう」(P.24~25)</p> <p>学習目標 「選んだ言葉のつなげ方を工夫してCMソングをつくろう。」 「言葉のリズムや抑揚を捉えて、テーマに合う言葉を選ぼう。」</p> <p>共通事項 構成・音色・リズム・旋律</p> <p>①キャッチコピーと歌詞をつくる→②言葉のリズムや三音または五音を使って旋律をつくる→③つくった旋律を繰り返して自分の住む地域のCMソングを完成させる</p>																		
<p>教芸</p>	<p>【創作の題材の取り上げ方】</p> <p>○「My Melody」及び「Let's Create!」として、各学年2つずつの活動を取り上げている。</p> <p>【題材名, 指導事項】</p> <table border="1" data-bbox="384 925 1342 1435"> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>題材名等</th> <th>指導事項</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">1</td> <td>音のつながり方の特徴を生かして旋律をつくろう。(P.21~23)</td> <td>音のつながり方の特徴</td> </tr> <tr> <td>構成を工夫して、3つの場面の音楽をつくろう。(P.40~41)</td> <td>構成上の特徴</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">2・3上</td> <td>言葉の抑揚を生かして旋律をつくろう。(P.36~37)</td> <td>音のつながり方の特徴</td> </tr> <tr> <td>構成を工夫して、言葉によるリズムアンサンブルをつくろう。(P.38~39)</td> <td>構成上の特徴</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">2・3下</td> <td>ハ長調の音階を使ってまとまりのある旋律をつくろう。(P.30~31)</td> <td>音のつながり方の特徴</td> </tr> <tr> <td>音の特徴や重なりを感じてリズムアンサンブルをつくろう。(P.32~33)</td> <td>構成上の特徴</td> </tr> </tbody> </table> <p>【創作の題材構成の具体例】</p> <p>○全ての活動において例を示しており、活動の内容の例示と書き込みのワークシートを分けて配置している。</p> <p>○活動の導入では、「Warming up」(音楽1P.21)(音楽2・3下P.30)で、既習曲で学習した音のつながり方やリズムパターンからどのような感じ取り方があるかを考え、創作の題材の活動につながるように展開している。</p> <p>○全ての題材で協働的な学習を取り入れており、協働的な学習における会話の例をキャラクターと吹き出しによって示している。また、創作の題材6つ中5つで、つくった作品の中間発表を通して意見交換し、それを参考に完成させる手順を示している。</p> <p>○音楽1の旋律の創作の題材(P.21~23)では、4種類のリズムパターンを作成し、4小節の旋律を創作する活動を示している。</p> <p>○音楽2・3上のリズムの創作の題材(P.38~39)では、リズムのもとをつなぎ合わ</p>	学年	題材名等	指導事項	1	音のつながり方の特徴を生かして旋律をつくろう。(P.21~23)	音のつながり方の特徴	構成を工夫して、3つの場面の音楽をつくろう。(P.40~41)	構成上の特徴	2・3上	言葉の抑揚を生かして旋律をつくろう。(P.36~37)	音のつながり方の特徴	構成を工夫して、言葉によるリズムアンサンブルをつくろう。(P.38~39)	構成上の特徴	2・3下	ハ長調の音階を使ってまとまりのある旋律をつくろう。(P.30~31)	音のつながり方の特徴	音の特徴や重なりを感じてリズムアンサンブルをつくろう。(P.32~33)	構成上の特徴
学年	題材名等	指導事項																	
1	音のつながり方の特徴を生かして旋律をつくろう。(P.21~23)	音のつながり方の特徴																	
	構成を工夫して、3つの場面の音楽をつくろう。(P.40~41)	構成上の特徴																	
2・3上	言葉の抑揚を生かして旋律をつくろう。(P.36~37)	音のつながり方の特徴																	
	構成を工夫して、言葉によるリズムアンサンブルをつくろう。(P.38~39)	構成上の特徴																	
2・3下	ハ長調の音階を使ってまとまりのある旋律をつくろう。(P.30~31)	音のつながり方の特徴																	
	音の特徴や重なりを感じてリズムアンサンブルをつくろう。(P.32~33)	構成上の特徴																	

せて2小節のリズムパターンを創作し、3人で重ねて音楽をつくる活動を示している。

○音楽2・3下の旋律の創作の題材(P.30~31)では、和音に含まれる音から音を選び、8小節の旋律を創作する活動を示している。

<具体例>

音楽1「音のつながり方の特徴を生かして旋律をつくろう」(P.21~23)

学習目標 「音のつながり方の特徴を生かして旋律をつくろう。」

共通事項 リズム・旋律

①リズムチャレンジ(P.17)でつくったリズムを書き入れる→②和音の動きに合わせて手拍子を打ち、つくる旋律の音の動きをイメージする→③・④音のつながり方を工夫しながら4小節の旋律をつくる→⑤中間発表でつくった旋律について意見交換をする→⑥意見交換したことを参考に旋律を完成させる

音楽2・3上「構成を工夫して、言葉によるリズムアンサンブルをつくろう」

(P.38~39)

学習目標 「構成を工夫して、言葉によるリズムアンサンブルをつくろう。」

共通事項 リズム・テクスチャ・構成

①グループに分かれ、好きな材料を選んでリズムのもとを3つ作る→②リズムが反復、変化するようにリズムのもとをつなぎ合わせて2小節のリズムをつくる→③リズムを重ねて「サラダを盛り付ける音楽」をつくる→④③からどのように材料を減らしていくのかを話し合い、「サラダを食べる音楽」をつくる→⑤「サラダを盛り付ける音楽」と「サラダを食べる音楽」を速度や強弱を工夫しながら続けて演奏し、感想を発表し合う

音楽2・3下「ハ長調の音階を使ってまとまりのある旋律をつくろう」(P.30~31)

学習目標 「ハ長調の音階を使ってまとまりのある旋律をつくろう。」

共通事項 リズム・旋律・構成

①和音に含まれる音の中から1つずつ音を選んでもとの旋律をつくる→②音のつながり方を工夫しながら、もとの旋律のリズムや音を変えてまとまりのある旋律をつくる→③2種類の伴奏から好きな方を選び、②をその伴奏の雰囲気合うように変える→④中間発表でつくった旋律について意見交換をする→⑤意見交換したことを参考に旋律を完成させる

【音楽（一般）】

観 点	主体的に学習に取り組む工夫
視 点	④音楽的な見方・考え方を働かせる工夫
方 法	○歌唱分野に関する学習過程等の示し方と具体例

発行者	調査・研究内容
教出	<p>○各学年の始め (P.4~5) に「学びのユニット」を示しており、学びのねらいと学習する曲や活動、学習を生かして比べる曲を示している。円のまわりには、学びを深めるための曲や活動、学びの手がかりとなるヒントもある。また、各教材名の左右端に縦書きで「学びのポイント」を示している。歌唱の冒頭の「学びのユニット」(P.6~11) には、「ACTIVE！」を配置し、学習を進めるようになっている。</p> <p><具体例></p> <p>音楽1 「青空へのぼろう」(P.6~9)</p> <p>学びのねらい：無理のない自然な声の出し方で歌おう 学びのポイント：声の出し方や発音、歌う姿勢を身につけよう。 強弱や音域に応じた歌い方を工夫しよう。</p> <p>ACTIVE!</p> <p>P.8 「『青空へのぼろう』を次のA~Dの四つに分けたとき、それぞれの似ているところや違うところなどを確かめ、気がついたことを楽譜に記入しよう。」</p> <p>P.9 「AとBの似ているところ、違うところはどこだろう？下の表にまとめ、交流してみよう。」</p> <p>【音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉えさせる工夫】 曲のAとBを「似ているところ」「違うところ」としてまとめる表があり、それをもとに「話し合おう」という枠の中で、曲のCやDと比較してどんな関係にあるのかということ問う中で、曲の構成を考えさせる記述がある。またその構成を生かして表現の工夫を考えさせる枠を設けている。</p> <p>音楽2・3年上「生命が羽ばたくとき」(P.6~9)</p> <p>学びのねらい：曲にふさわしい発声で歌おう 学びのポイント：旋律のまとまりを捉えて、音域に応じた発声で歌おう。 歌詞の内容を味わい、強弱や音域に応じた歌い方を工夫しよう。</p> <p>ACTIVE!</p> <p>P.8 「速度や強弱に関する記号(□の部分)を記入し、旋律の特徴や主旋律のパートと他のパートとの関わり、曲の山場(クライマックス)などについて、気づいたことを余白にメモしよう。」</p> <p>P.9 「A~Cごとに、感じ取った曲想や表現を工夫したい点を下の表にまとめてみよう。また、指揮の振り方についても考えてみよう。」</p> <p>【音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉えさせる工夫】 「感じ取った曲想について」及び「表現を工夫したい点について」をまとめる表の横に、キャラクターの吹き出しで「女声パートを男声パートが追いかけるようになっているのね。」「『生命が羽ばたくとき』の強弱はmp→mf→f だいに強くなっていくんだね。」と示している。</p>

○学習目標が各教材名の左右端に縦書きで示してあり、活動文を教材名の下に横書きで掲載している。また、音楽1、音楽2・3上に、「深めよう！音楽」として、学習の手順を番号で示し、各段階で考えることを吹き出し等で示している。キャラクター等が意見を出し合いながら学習を進める様子を示す吹き出しによって、学習過程が提示してある。

<具体例>

音楽1 「Let' s Search For Tomorrow」 (P. 34~35)

学習目標：曲の構成や曲想の変化を生かして合唱しよう。

活動文：音楽の特徴に気を付けながら、表現を工夫して歌いましょう。

「深めよう！音楽 自分たちの表現を工夫しよう」 (P. 36~37)

- 1 この曲はA~Eの5つの部分で構成されています。楽譜と上の歌詞を見比べて、全体の流れを確かめましょう。
- 2 A~Eの各部分について、音楽や歌詞から気付いたことを右の表に書き入れましょう。その際、下の「注目するポイント」や「調べ方の例」を参考にしましょう。
- 3 2で調べたことを手がかりに、どのように歌いたいかを話し合っ、下の表に書き入れましょう。
- 4 3で話し合ったことをもとに、自分たちの表現を工夫して歌いましょう。

【音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉えさせる工夫】

注目するポイントとして「速度、旋律、テクスチュア（音の重なり方）、強弱、構成」と示している。

教芸

音楽2・3年上「翼をください」 (P. 14~15)

学習目標：パートの役割を理解して合唱しよう。

活動文：A B Cそれぞれの曲想の違いやパートの役割を感じ取って、曲にふさわしい表現を工夫して歌いましょう。

「深めよう！音楽 パートの役割と重なり方」 (P. 16)

「My Voice！自分の思いを歌声にのせよう」 (P. 17)

- 1 A B Cそれぞれの部分の音楽の特徴について、下の「ヒント」を参考にしながら確かめましょう。
- 2 1で確かめたことをもとに、どのような点を工夫して歌いたいかをまとめましょう。実際に歌って試しながら、下の「注目するポイント」に気を付けて表現の仕方を考えましょう。また、参考にしたい友達の意見も書き留めて、自分たちの演奏に生かしましょう。

【音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉えさせる工夫】

工夫したい点についてまとめる際の注目するポイントとして、「リズム、テクスチュア（音の重なり方）、強弱、構成」と示し、キャラクターの吹き出しで、「『翼をください』の歌い出しの旋律は、なだらかな音の動きだから、落ち着いた雰囲気でも歌いたいな。」「そうだね。伴奏も、4分音符のリズムで静かな感じ。」「でも、強弱記号は歌も伴奏もmfだから、弱々しくしないで、旋律を滑らかに歌いたいな。」「そのためには、息の流れに歌声をのせるイメージで歌えるといいね。」と示している。

【音楽（一般）】

観 点	主体的に学習に取り組む工夫
視 点	⑤音や音楽を生活や文化などと関連付ける工夫
方 法	○音や音楽と生活との関わりについての記述

発行者	調査・研究内容
教出	<p>○音や音楽と生活との関わりについて扱う題材や、「私たちの暮らしと音楽」や、各学年の「作者の思いにふれる」等の「学習資料」を掲載している。</p> <p>音楽1 「日本とアジアの声によるさまざまな表現」(P.54~55) わが国やアジアの地域の人々の暮らしと、さまざまな声で表現する音楽との結びつきを、声の音色(おんしょく)や出し方、合わせ方などの特徴を視点に聴き取らせる記述がある。 「発展『音』ってなあに？」(P.66) 音という現象について、掲載しており、電気製品にも触れている。また、音の速さについても掲載している。 「作者の思いにふれる」(巻頭口絵②) シューベルトの人物画、自筆譜、創作物語等を掲載している。</p> <p>音楽2・3上 「郷土の音楽や芸能」(P.46~47) 日本各地には、家内安全、商売繁盛、豊作などを願い、さまざまな場所と機会で行われる音楽や芸能があり、そこでは、鹿・獅子・竜・虎などにふんしてさまざまなものが行われることを記述している。 「ポピュラー音楽図鑑」(P.66~69) ブルース、ゴスペル、ジャズ、リズム・アンド・ブルース、カントリー・アンド・ウエスタン、フォーク、ロックのポピュラー音楽の紹介と、各音楽に係るミュージシャン等を掲載している。 「私たちの暮らしと音楽～音楽著作権について～」(P.70~71) 「著作物であるもの」と「著作物でないもの」を、まとめて掲載している。また、インターネット上で配信する際等の注意事項について例を挙げて掲載している。 「作者の思いにふれる」(巻頭口絵②) ベートーヴェンの人物画、自筆譜、創作物語等を掲載している。</p> <p>音楽2・3下 「さまざまな舞台芸術」(口絵③, 口絵④) わが国と諸外国の舞台芸術の写真及び、関連するページ数を掲載している。 「コンピュータと音楽」(P.64~65) 創作、歌唱、器楽、鑑賞のそれぞれの学習におけるコンピュータの活用方法や注意事項等について掲載している。また、「僕は、インターネットを使って、好きな音楽についていろいろ調べてみたいな。」等と活用を促す呼びかけがある。 「私たちの暮らしと音楽～アウトリーチ・教育活動・音楽療法について～」 (P.66~67)</p>

<p>教出</p>	<p>「アウトリーチ」, 「音楽をとおした教育活動」, 「音楽療法」について掲載している。また, 「小学校での音楽に関わる活動や経験を思い出してみよう。」等の呼びかけがある。</p> <p>「作者の思いにふれる」(巻頭口絵②) 滝廉太郎の自筆譜と作品等を掲載している。</p>
<p>教芸</p>	<p>○音や音楽と生活との関わりについて扱う題材や, 各学年に表現者からのメッセージ, 「生活や社会の中の音楽」「音楽ってなんだろう?」等を掲載している。</p> <p>音楽1 「郷土に伝わる民謡を調べよう」(P.62) 民謡の種類と, 日本全国の各々の民謡を日本地図とともに掲載している。また, 「自分たちの住んでいる地域にはどのような民謡が伝わっているのか, インターネットなどを活用して調べましょう。」とあり, 調べて書き込むためのワークシート等を掲載している。</p> <p>「生活や社会の中の音楽 音や音楽の果たす役割」(P.66) 「音や音楽は, 私たちの暮らしにおいてさまざまな役割を果たしています。」とあり, 「スマートフォン」「鐘の音」「サウンドロゴ」「郷土芸能」の役割等について掲載している。</p> <p>「伝統をつなぐ 野村萬斎」(P.2~3 巻頭口絵) 「音楽ってなんだろう?~世界をつなぐもの~」(P.4~5 巻頭口絵)</p> <p>音楽2・3上 「受け継ごう!郷土の祭りや芸能」(P.68~69) 郷土の祭りや芸能の種類, 全国の郷土の祭りや芸能の例を写真や日本地図とともに掲載している。また, 「郷土に伝わる祭りや芸能を他の地域の人々に紹介できるように, インターネットなどを活用して調べてもいいね。」と吹き出しがある。</p> <p>「生活や社会の中の音楽 音楽体験を拓くアウトリーチ」(P.72) アウトリーチの活動等について掲載している。</p> <p>「14歳の時間 松任谷由実」(P.2~3 巻頭口絵) 「音楽ってなんだろう?~時間とともにあるもの~」(P.4~5 巻頭口絵)</p> <p>音楽2・3下 「私たちが受け継ぐ郷土の祭りや芸能」(P.54~55) 「皆さんと同じ中学生の中には, 地域に伝わる祭りや芸能に取り組んでいる人たちがいます。ここで紹介するそれぞれの取り組みを通して, 郷土の伝統文化や歴史を受け継ぐことの大切さを感じ取りましょう。」とあり, 「鷲宮催馬楽神楽」「阿波人形浄瑠璃」「秋田竿燈まつり」の取り組みを中学生にインタビューした内容等とともに掲載している。</p> <p>「ポピュラー音楽」(P.58~59) 12種類のポピュラー音楽のジャンル名を掲載し, その中のロック, ジャズ, ボサノヴァの解説と, 各音楽に関係するミュージシャン, 楽譜等を掲載している。</p> <p>「ポピュラー音楽のジャンル(海外編)」(P.60~61) 海外のポピュラー音楽のジャンルをひとこと解説やCDのジャケット写真とともに掲載している。また, 音楽メディアの変遷を掲載している。</p>

<p>教芸</p>	<p>「ポピュラー音楽のジャンル（日本編）」（P. 62～63） 日本のポピュラー音楽のジャンルをひとこと解説やCDのジャケット写真とともに掲載している。また、ふだん聴いている曲を2曲選び、その音楽の特徴を書き入れるワークシートを掲載している。</p> <p>「社会を映し出す音楽」（P. 40～41） 色々な音楽と出会うときの参考となるよう、主に西洋音楽を中心に、作品や作曲家などを掲載している。</p> <p>「ルールを守って音楽を楽しもう！」（P. 64～65） 「著作権とは～音楽は誰のもの？～」「音楽を利用するときに気を付けること」「音楽が生み出される仕組み」について掲載している。また、「例えばこんなとき、どうすればいいのだろうか？調べたり話し合ったりしよう。」と2つのケースを掲載している。</p> <p>「生活や社会の中の音楽 仕事と音楽」（P. 68～69） 社会の中の音楽に関わる仕事について掲載しており、音楽教育とSDGs（エスディージーズ）について、インタビューを交えながら掲載している。</p> <p>「詩人と作曲家 谷川俊太郎×木下牧子」（P. 2～3 巻頭口絵） 「音楽ってなんだろう？～声や音にのせて～」（P. 4～5 巻頭口絵）</p>
-----------	--

【音楽（一般）】

観 点	内容の構成・配列・分量
視 点	⑥我が国の音楽に関する内容の扱い
方 法	○学年ごとに扱う鑑賞教材・歌唱教材

発行者	調査・研究内容
教出	<p>音楽1</p> <p>【鑑賞教材】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 箏曲「六段の調」(P. 48～50) 箏について, 箏の調子について, 楽曲について, 縦書きの楽譜 (生田流), 横書きの楽譜 (山田流) を掲載している。 ・ 尺八曲「鹿の遠音」(P. 51) 楽曲について, 楽器について掲載している。 ・ 日本とアジアの声によるさまざまな表現 (P. 54～55) 天台声明, 日本の民謡, ケチャ, ホーミー, 布農 (ブヌン) 族の合唱について説明文等を掲載している。 ・ 日本とアジアをつなぐ音 (P. 63) 箏, グージョン, カヤグムについて写真と解説文を掲載している。 ・ 郷土のさまざまな民謡 (P. 30～31) 仕事歌, 祝い歌, 踊り歌, 子守歌, 楽しみのための歌についての説明文, 律音階, 都節音階, 沖縄音階, 民謡音階等を掲載している。 <p>【歌唱教材】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本の歌 みんなの歌 「夏の思い出」「赤とんぼ」(P. 14～19) ・ 「ソーラン節」「かりぼし切り歌」(P. 28～29) ・ 「この道」「谷茶前」(P. 58～59) ・ 「全校合唱 故郷」(P. 80～81) <p>音楽2・3上</p> <p>【鑑賞教材】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 雅楽「越天楽」(平調) —管絃—(P. 40～42) 雅楽の楽器について, 雅楽の種類, 雅楽の用語「序破急」について掲載している。 ・ 舞楽左舞「万歳楽」, 舞楽右舞「狛杵」(P. 43) 番舞について掲載している。 ・ 郷土の音楽や芸能 (P. 46～47) 鹿踊, 獅子舞, 龍踊, 虎舞について写真と解説文を掲載している。 ・ 各地のさまざまな音楽・芸能(P. 48～49) 博多祇園山笠, 壬生の花田植, 阿波おどり, 天神祭, 犬山祭, 三社祭, 秩父夜祭, 早池峰神楽について写真と解説文を掲載している。 ・ 能「羽衣」キリから(P. 59) あらすじ, 写真を掲載している。 <p>【歌唱教材】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本の歌 みんなの歌 「浜辺の歌」「早春賦」(P. 14～19), 「花の街」(P. 52～54) ・ 「全校合唱 故郷」(P. 80～81) ・ 唱歌を用いて「越天楽」を体験しよう(P. 44～45) 膝の打ち方を掲載している。 ・ 能の音楽を体験しよう(P. 62～63) 「羽衣」天人の写真と謡の音, 謡のリズムについての解説文と譜例を掲載している。 ・ 「時計台の鐘」(P. 55) 「雪の降る街を」(P. 75) <p>音楽2・3下</p>

<p>教出</p>	<p>【鑑賞教材】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌舞伎「勸進帳」(P.38~41) 歌舞伎「勸進帳」の内容、場面とあらすじ、長唄、囃子、黒御簾音楽、隈取、衣装、見得、セリフ(台詞)劇・音楽劇、せり・スッポン、廻り舞台、花道について写真や図、解説文を掲載している。 ・文楽「義経千本桜」から(P.42~43) あらすじ、文楽が演じられる場所について写真や図、解説文を掲載している。 <p>【歌唱教材】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の歌 みんなの歌 「花」「荒城の月」(P.12~19) ・「荒城の月」(山田耕筰 補作編曲)、「椰子の実」(P.48~49) ・長唄「勸進帳」をうたおう(P.44~45) 長唄とは、口三味線について、長唄をうたう時には、について写真、譜例、解説文を掲載している。 ・「全校合唱 故郷」(P.80~81)
<p>教芸</p>	<p>音楽1</p> <p>【鑑賞教材】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雅楽「平調 越天楽」一管絃一(P.52~54) 雅楽、雅楽の演奏の特徴について、写真、曲の構成図、解説文を掲載している。また、管絃で使われる楽器とその役割について、写真と解説文を掲載している。 ・箏曲「六段の調」(P.56~57) 箏曲、調弦、曲の構成、楽曲について、八橋検校、箏曲の楽譜について、写真、譜例、解説文を掲載している。 ・日本の民謡 (P.58~59) 南部牛追唄、伊勢音頭、谷茶前について、写真、譜例、解説文を掲載している。 ・郷土に伝わる民謡を調べよう (P.62~63) 全国の民謡の例(地図)、日本音楽に関する言葉、序破急、間、音階について図や譜例、解説文を掲載している。 <p>【歌唱教材】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心の歌 「浜辺の歌」「赤とんぼ」(P.24~29) ・「越天楽」の唱歌を歌おう(P.55) 歌うときのポイント、筆箏の独特な奏法についての解説文、譜例、平安時代の貴族と雅楽についての写真と解説文が掲載されている。 ・歌い継ごう日本の歌 「涙そうそう」「上を向いて歩こう」「ふるさと(全校合唱)」(P.68~71) ・「ソーラン節」(P.60~61) 絵譜、写真、演奏者からのアドバイスを掲載している。 <p>音楽2・3上</p> <p>【鑑賞教材】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌舞伎「勸進帳」(P.58~59) 鑑賞場面までのあらすじ、場面1~場面5の写真と解説文、勸進帳とは、六方についての解説文を掲載している。 ・文楽「新版歌祭文」から「野崎村の段」(P.64~65) あらすじ、情景を表現する工夫、セリフの語り分け、義太夫節の名旋律について、写真、詞章、解説文を掲載している。 ・受け継ごう!郷土の祭りや芸能(P.68~69) 祭礼、神楽、田楽、風流、舞台芸、その他に分類され、それぞれの解説文と写真を掲載している。また、次代に受け継ぐ無形の遺産についての解説文や絵地図を掲載している。 <p>【歌唱教材】</p>

教芸	<ul style="list-style-type: none"> ・心の歌 「夏の思い出」(P. 18～21)「荒城の月」(P. 24～25) ・長唄「勸進帳」から(P. 60～61) 演奏者からのアドバイス, 長唄に関する言葉, 長唄について, 絵譜, 写真, 譜例, 解説文を掲載している。 ・義太夫節「野崎村の段」から(P. 66) 絵譜, 演奏者からのアドバイスを掲載している。 ・歌い継ごう日本の歌 「やさしさに包まれたなら」「夏は来ぬ」「ふるさと(全校合唱)」(P. 74～79) <p>音楽2・3下</p> <p>【鑑賞教材】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・尺八楽「巢鶴鈴慕」(P. 42～43) 尺八楽, 楽曲について, 尺八の基本となる音と領域, 琴古流本曲について, 絵譜, 写真, 解説文を掲載している。 ・能「敦盛」(P. 46～47) あらすじ, いろいろな謡い方, 舞の音楽, 謡いによる表現の工夫, 「平家物語」が後世の芸能に与えた影響について, 詞章, 写真, 解説文を掲載している。 ・沖縄の伝統芸能「組踊」に親しもう(P. 51) 組踊の演者・演奏者, 組踊を構成する要素, 「執心鐘入」について, 写真と解説文を掲載している。 ・伝統音楽の魅力を見つけよう(P. 52～53) 能「安宅」, 歌舞伎「勸進帳」, 文楽「鳴響安宅新関」“勸進帳の段”についてそれぞれの詞章, 写真, 解説文を掲載している。 ・私たちが受け継ぐ郷土の祭りや芸能(P. 54～55) 鷲宮催馬楽神楽, 阿波人形浄瑠璃, 秋田竿燈まつりについて, それぞれ写真や解説文, 中学生にインタビュー, 郷土の祭りや芸能に関する言葉を掲載している。 <p>【歌唱教材】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心の歌「花」「花の街」「早春賦」(P. 10～22) ・歌い継ごう日本の歌 「花は咲く」「椰子の実」「ふるさと(全校合唱)」(P. 70～73) ・謡「敦盛」から(P. 48～49) 演奏者からのアドバイス, 謡に関する言葉, 一調二機三声～世阿弥の言葉～, 狂言について, 絵譜, 写真, 解説文を掲載している。
----	---

【音楽（一般）】

観 点	内容の構成・配列・分量
視 点	⑦教材の配列及び分量
方 法	○教材の配列とその具体例及び目次に示された領域ごとの教材数

発行者	調査・研究内容			
	○教材の配列は、歌唱教材，創作，鑑賞教材の順に配列してあり，続いて「深めてみよう」の歌唱教材，鑑賞教材，合唱曲集，国歌，楽典，資料の順に配列している。 ○歌唱や創作等のヒントとなる「Let's Sing!」「Let's Try!」を掲載している。			
	【目次に示された教材数】			
		音楽1	音楽2・3上	音楽2・3下
	・歌唱教材	(9)P. 6～29	(7)P. 6～25	(5)P. 6～21
	・創作	(2)P. 32～35	(2)P. 26～29	(2)P. 22～25
	・鑑賞教材	(7)P. 38～55	(8)P. 30～43 P. 46～49	(6)P. 26～43
	・歌唱教材（深めてみよう）	(3)P. 56～59	(3)P. 50～55	(3)P. 46～49
	・鑑賞教材（深めてみよう）	(3)P. 61～63	(3)P. 57～61	(3)P. 51～53
	・Let's Sing!	(3)	(1)	(1)
	歌うための準備	P. 12～13		
	言葉の発音について	P. 19		
	変声と混声合唱	P. 24～25		
	旋律のまとまり		P. 19	
	フレーズと形式			P. 19
	・Let's Try!	(3)	(3)	(1)
	指揮をしてみよう	P. 21	P. 22～23	
	くいしんぼうのラップ	P. 36～37		
	箏を弾いてみよう	P. 52～53		
	唱歌を用いて「越天楽」を体験しよう		P. 44～45	
	能の音楽を体験しよう		P. 62～63	
	長唄「勅進帳」をうたおう			P. 44～45
	・「音」ってなあに？（発展）	P. 66		
	・何が同じで，何が違う？	P. 60	P. 56	P. 50
	・どんな特徴があるかな？	P. 64～65	P. 64～65	
	・ポピュラー音楽図鑑		P. 66～69	
	・私たちのくらしと音楽		P. 70～71	P. 66～67
	・リコーダー運指表 コードネーム表	P. 67	P. 73	P. 69
	・音の三要素 PART-1 （発展）		P. 72	
	・音の三要素 PART-2 （発展）			P. 68
	・日本と西洋の音楽のあゆみ			P. 54～59
	・肖像面で見える音楽年表			P. 60～63
	・コンピュータと音楽			P. 64～65
	・合唱曲集・歌のアルバム	(6)P. 68～81	(5)P. 74～81	(8)P. 70～81
	・〔国歌〕君が代	P. 82～83	P. 82～83	P. 82～83
教出				

<p>教出</p>	<p>・楽典 全学年 P. 84～84②</p> <p>・資料 口絵③, 口絵④, 口絵③, 口絵④, 口絵③, 口絵④</p>																																																																																																																
<p>教芸</p>	<p>○音楽1の教材の配列は、歌唱教材、鑑賞教材、合唱曲集、楽典、国歌の順で配列してあり、創作に関しては、関連歌唱教材、鑑賞教材の後に配列している。</p> <p>音楽2・3上下では、歌唱教材、創作、鑑賞教材、合唱曲集、楽典、国歌の順で配列している。</p> <p>○歌唱や鑑賞などの参考資料として「発声」「指揮」を掲載している。</p> <p>【目次に示された教材数】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>音楽1</th> <th>音楽2・3上</th> <th>音楽2・3下</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・歌唱教材</td> <td>(3)P. 10～19</td> <td>(8)P. 10～35</td> <td>(7)P. 10～29</td> </tr> <tr> <td>・創作</td> <td>(2)</td> <td>(2)</td> <td>(2)</td> </tr> <tr> <td> My Melody</td> <td>P. 21～23</td> <td>P. 36～37</td> <td>P. 30～31</td> </tr> <tr> <td> Let's Create!</td> <td>P. 40～41</td> <td>P. 38～39</td> <td>P. 32～33</td> </tr> <tr> <td>・歌唱教材</td> <td>(6)P. 24～38</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・鑑賞教材</td> <td>(6)P. 39 P. 44～59</td> <td>(6)P. 40～59 P. 64～65 P. 70～71</td> <td>(4)P. 34～47</td> </tr> <tr> <td>・歌唱教材</td> <td>(1)P. 60～63</td> <td>(2)P. 60, P. 66</td> <td>(1)P. 48～49</td> </tr> <tr> <td>・鑑賞教材</td> <td>(1)P. 64～65</td> <td></td> <td>(2)P. 56～63</td> </tr> <tr> <td>・My Voice!</td> <td>(2)</td> <td>(2)</td> <td>(1)</td> </tr> <tr> <td> 自分の歌声を見つけよう</td> <td>P. 14～15</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td> 変声期</td> <td>P. 20</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td> 自分の思いを歌声にのせよう</td> <td></td> <td>P. 17</td> <td></td> </tr> <tr> <td> 鼻濁音</td> <td></td> <td>P. 23</td> <td></td> </tr> <tr> <td> 豊かな歌声で、気持ちをこめて歌おう</td> <td></td> <td></td> <td>P. 19</td> </tr> <tr> <td>・リズムで楽しもう</td> <td>P. 16～17</td> <td>P. 12～13</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・社会を映し出す音楽</td> <td></td> <td></td> <td>P. 40～41</td> </tr> <tr> <td>・指揮をしてみよう!</td> <td>P. 42～43</td> <td>P. 50～51</td> <td>P. 66～67</td> </tr> <tr> <td>・生活や社会の中の音楽</td> <td>P. 66</td> <td>P. 72</td> <td>P. 68～69</td> </tr> <tr> <td>・音楽を形づくっている要素</td> <td>P. 67</td> <td>P. 73</td> <td>P. 89</td> </tr> <tr> <td>・ルールを守って音楽を楽しもう!</td> <td></td> <td></td> <td>P. 64～65</td> </tr> <tr> <td>・合唱曲集</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td> 歌い継ごう日本の歌</td> <td>(3)P. 68～71</td> <td>(3)P. 74～79</td> <td>(3)P. 70～73</td> </tr> <tr> <td> 心通う合唱</td> <td>(11)P. 72～92</td> <td>(7)P. 80～94</td> <td>(6)P. 74～88</td> </tr> <tr> <td>・耳でたどる音楽史</td> <td></td> <td></td> <td>P. 90～95</td> </tr> <tr> <td>・曲のよさをプレゼンしよう</td> <td>P. 93</td> <td></td> <td>P. 96</td> </tr> <tr> <td>・音楽の約束(楽典)</td> <td>P. 94～97</td> <td>P. 95～97</td> <td>P. 97</td> </tr> <tr> <td>・国歌「君が代」</td> <td>P. 98～99</td> <td>P. 98～99</td> <td>P. 98～99</td> </tr> </tbody> </table>		音楽1	音楽2・3上	音楽2・3下	・歌唱教材	(3)P. 10～19	(8)P. 10～35	(7)P. 10～29	・創作	(2)	(2)	(2)	My Melody	P. 21～23	P. 36～37	P. 30～31	Let's Create!	P. 40～41	P. 38～39	P. 32～33	・歌唱教材	(6)P. 24～38			・鑑賞教材	(6)P. 39 P. 44～59	(6)P. 40～59 P. 64～65 P. 70～71	(4)P. 34～47	・歌唱教材	(1)P. 60～63	(2)P. 60, P. 66	(1)P. 48～49	・鑑賞教材	(1)P. 64～65		(2)P. 56～63	・My Voice!	(2)	(2)	(1)	自分の歌声を見つけよう	P. 14～15			変声期	P. 20			自分の思いを歌声にのせよう		P. 17		鼻濁音		P. 23		豊かな歌声で、気持ちをこめて歌おう			P. 19	・リズムで楽しもう	P. 16～17	P. 12～13		・社会を映し出す音楽			P. 40～41	・指揮をしてみよう!	P. 42～43	P. 50～51	P. 66～67	・生活や社会の中の音楽	P. 66	P. 72	P. 68～69	・音楽を形づくっている要素	P. 67	P. 73	P. 89	・ルールを守って音楽を楽しもう!			P. 64～65	・合唱曲集				歌い継ごう日本の歌	(3)P. 68～71	(3)P. 74～79	(3)P. 70～73	心通う合唱	(11)P. 72～92	(7)P. 80～94	(6)P. 74～88	・耳でたどる音楽史			P. 90～95	・曲のよさをプレゼンしよう	P. 93		P. 96	・音楽の約束(楽典)	P. 94～97	P. 95～97	P. 97	・国歌「君が代」	P. 98～99	P. 98～99	P. 98～99
	音楽1	音楽2・3上	音楽2・3下																																																																																																														
・歌唱教材	(3)P. 10～19	(8)P. 10～35	(7)P. 10～29																																																																																																														
・創作	(2)	(2)	(2)																																																																																																														
My Melody	P. 21～23	P. 36～37	P. 30～31																																																																																																														
Let's Create!	P. 40～41	P. 38～39	P. 32～33																																																																																																														
・歌唱教材	(6)P. 24～38																																																																																																																
・鑑賞教材	(6)P. 39 P. 44～59	(6)P. 40～59 P. 64～65 P. 70～71	(4)P. 34～47																																																																																																														
・歌唱教材	(1)P. 60～63	(2)P. 60, P. 66	(1)P. 48～49																																																																																																														
・鑑賞教材	(1)P. 64～65		(2)P. 56～63																																																																																																														
・My Voice!	(2)	(2)	(1)																																																																																																														
自分の歌声を見つけよう	P. 14～15																																																																																																																
変声期	P. 20																																																																																																																
自分の思いを歌声にのせよう		P. 17																																																																																																															
鼻濁音		P. 23																																																																																																															
豊かな歌声で、気持ちをこめて歌おう			P. 19																																																																																																														
・リズムで楽しもう	P. 16～17	P. 12～13																																																																																																															
・社会を映し出す音楽			P. 40～41																																																																																																														
・指揮をしてみよう!	P. 42～43	P. 50～51	P. 66～67																																																																																																														
・生活や社会の中の音楽	P. 66	P. 72	P. 68～69																																																																																																														
・音楽を形づくっている要素	P. 67	P. 73	P. 89																																																																																																														
・ルールを守って音楽を楽しもう!			P. 64～65																																																																																																														
・合唱曲集																																																																																																																	
歌い継ごう日本の歌	(3)P. 68～71	(3)P. 74～79	(3)P. 70～73																																																																																																														
心通う合唱	(11)P. 72～92	(7)P. 80～94	(6)P. 74～88																																																																																																														
・耳でたどる音楽史			P. 90～95																																																																																																														
・曲のよさをプレゼンしよう	P. 93		P. 96																																																																																																														
・音楽の約束(楽典)	P. 94～97	P. 95～97	P. 97																																																																																																														
・国歌「君が代」	P. 98～99	P. 98～99	P. 98～99																																																																																																														

【音楽（一般）】

観 点	内容の表現・表記
視 点	⑧〔共通事項〕の指導を充実させる工夫
方 法	○音楽を形づくっている要素の示し方と指導の工夫

発行者	調査・研究内容
教出	<p>【音楽を形づくっている要素の示し方】 ○各学年の始め (P.4~5) にある、「学びのユニット」の図において、「学びの手がかりとなるヒント」として、題材で扱う音楽を形づくっている要素を濃い色で示している。また、音楽1と音楽2・3上の「どんな特徴があるかな？」のページに、音楽を形づくっている要素の内容を掲載している。</p> <p><具体例> 音楽1「どんな特徴があるかな？」(P.64) 音楽は、音色（おんしょく）や旋律など、さまざまな要素から成り立っています。「きらきら星変奏曲」（主題と12の変奏）を聴いて、それらのはたらきに注目し、気がついたことや感じ取ったことを話し合ってみましょう。</p> <p>音楽2・3上「どんな特徴があるかな？」(P.64) 音楽は、音色（おんしょく）や旋律など、さまざまな要素から成り立っています。「アルルの女」第1組曲「前奏曲」の冒頭部分を聴いて、それらのはたらきに注目し、気がついたことや感じ取ったことを話し合ってみましょう。</p> <p>【指導の工夫】 ○「指揮をしてみよう」を音楽1 (P.21) と音楽2・3上 (P.22~23) に掲載し、体を動かす活動を取り入れて、音楽の特徴を捉えさせる指導の工夫をしている。</p> <p><具体例> 音楽1「Let's Try! 指揮をしてみよう」(P.21) 『明日を信じて』は4/4の曲です。右の指揮の図形を参考にして、J=104ぐらいの速さで指揮をしてみましょう。」</p> <p>音楽2・3年上「Let's Try! 指揮をしてみよう」(P.22~23) 「次の『ステップ1~6』を参考にして、『そよぐ風の中で』(p.20)の指揮をしてみよう。」</p> <p>ステップ1 「J=88で4/4の指揮をしてみよう。メトロノームで速度を確認してみよう。」</p> <p>ステップ2 「ピアノ伴奏者と速度を共有しながら、片手で指揮を始めます。」</p> <p>ステップ3 「Aから歌が始まりますが、みんなに向かってブレスを意識して合図をしてみよう。合図の方法はいくつかありますが、直前の小節の3~4拍めぐらいから、両手で指揮をするとわかりやすいでしょう。」</p> <p>ステップ4 「強弱を指揮で示してみよう。A~Dの強弱の設定は、次のようになっています。」</p> <p>ステップ5 「Dの1番かっこには3小節の間奏があります。ここは、ピアノ伴奏者に向かって指揮をしよう。」</p>

教出	ステップ6 「この曲の最後の rit. は、歌も伴奏も同時に終わるように示してみよう。」
教芸	<p>【音楽を形づくっている要素の示し方】</p> <p>○各教材の学習目標の下に、音楽を形づくっている要素を示している。また、各学年に「音楽を形づくっている要素」というページがあり、教科書掲載の曲や、創作活動などとの関わりがわかるよう、関わりのあるページと曲名を示している。</p> <p><具体例></p> <p>音楽1 「音楽を形づくっている要素」 (P. 67)</p> <p>「音色」 声や楽器の音色、身の回りの音など P. 14～15 「My Voice!」 P. 40～41 「Let' s Create!」</p> <p>「リズム」 拍や拍子、さまざまなリズムなど P. 16 「リズムゲーム」 P. 26 「浜辺の歌」</p> <p>「速度」 速度の設定や変化など P. 10 「We' ll Find The Way～はるかな道へ」 P. 26 「浜辺の歌」 P. 56 「箏曲『六段の調』」</p> <p>「旋律」 音のつながり方、フレーズ、音階、調など P. 18 「主人は冷たい土の中に」</p> <p>「テクスチャ」 和音やハーモニー、音や旋律の重なり方など P. 30 「朝の風に」</p> <p>「強弱」 音量の設定や変化など P. 34 「Let' s Search For Tomorrow」</p> <p>「形式」 音楽のさまざまな形式など P. 26 「浜辺の歌」</p> <p>「構成」 反復、変化、対照など P. 17 「リズムチャレンジ」</p> <p>【指導の工夫】</p> <p>○「指揮をしてみよう！」を各学年に掲載し、体を動かす活動を取り入れて、音楽の特徴を捉えさせる指導の工夫をしている。</p> <p><具体例></p> <p>音楽1 「指揮をしてみよう！」 (P. 42～43)</p> <p>「オペラ『カルメン』(ビゼー作曲)の『前奏曲』を聴きながら指揮をして、音楽の特徴を感じ取りましょう。」</p> <p>① 「前奏曲」を聴こう。</p> <p>② A～Cの各部分の曲想を感じ取って、指揮をしよう。</p> <p>③ 特に変化したと感じる部分について、下の注目するポイントを手がかりに確かめよう。</p> <p>注目するポイント「速度、旋律、強弱、構成」</p> <p>④ ③で感じたことに気を付けながら、指揮をしよう。</p> <p>音楽2・3上 「指揮をしてみよう！」 (P. 50～51)</p> <p>「『交響曲第5番 ハ短調』(p. 44)を聴きながら指揮をして、音楽の特徴を感じ取りましょう。」</p> <p>① 「『交響曲第5番 ハ短調』を聴こう。」</p> <p>② 「冒頭部分の指揮をしよう。また、友達の指揮に合わせて、冒頭のリズムを手拍子で打ったり、言葉を付けて歌ったりしよう。」</p>

教芸	③ 「続けて、提示部を聴きながら指揮をしよう。その際、動機の音型や、下の注目するポイントに気を付けながら、第1主題と第2主題の違いを感じ取ろう。」 注目するポイント「リズム、旋律、強弱、構成」
----	---

【音楽（一般）】

観 点	言語活動の充実
視 点	⑨表現及び鑑賞領域における言語活動の工夫
方 法	○音楽科の特質に応じた言語活動の具体例

発行者	調査・研究内容
教出	<p>○「話し合おう」という吹き出しと、自分の意見をまとめて記入する欄を設けることで、他者と協働した対話的な活動ができるようにしている。</p> <p><具体例>音楽2・3年上「曲の形式を生かして歌おう」(P.14~19) 教材曲「浜辺の歌」「早春賦」 学びのポイント：「曲想を感じ取り、形式を生かしてふさわしい表現を工夫しよう。」 「曲想と形式との関わりを理解して、強弱や音域に応じた声で歌おう。」 「曲の形式を生かして表現を工夫しよう。」 旋律のまとまりや形式を生かして歌唱表現をどのように工夫するかについて、意見を共有する場面を設定している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲の構成（二部形式）を理解して歌唱するために、二部形式を説明するための「浜辺の歌」の楽譜を掲載し(P.19)、記号の記入欄を設けている。また、記入の例示をしている。 ・「浜辺の歌」楽譜の下に「話し合おう」の吹き出しを示し(P.19)、「二部形式を意識して『浜辺の歌』を歌うとき、旋律のまとまりを生かしてどのように表現を工夫するか考えてみよう。また、考えたことを交流して歌ってみよう。」と示している。 <p><具体例>音楽2・3年上「平調子の特徴を生かして音楽をつくろう」(P.28~29) 学びのポイント：「旋律のつながり方を工夫して、まとまりのある音楽をつくろう。」 「平調子の響きや旋律のまとまりを捉えてリズムを選ぼう。」 表したい思いや意図を伝え合う場面、また、実際に音を出して音楽表現を高めていく場面を設定している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動1~3を示し、2では「五つの音から自由に音を選び、㊦~㊧のリズムを使って短い旋律をつくり、リコーダーや箏で表現して交流しよう。」と示し、「交流したことを記録しておこう。」の記入欄を設けている。 ・活動3では、「五つの音と㊦~㊧のリズムを自由に選んで短い旋律をつくり、リコーダーや箏で表現して再度交流しよう。」と示している。 <p><具体例>音楽1「弦楽器の豊かな表現を鑑賞しよう」(P.38~43) 教材曲『春』第1楽章』『秋』第1楽章 学びのポイント：「曲想の変化を形式やソネットと関わらせながら鑑賞しよう。」 「リトルネッロ形式による曲の構成を聴き取ろう。」 音楽を聴いて気付いたことや感じ取ったことなどの様々な意見を共有する場面を設定している。</p>

<p>教出</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ソネットと音楽の関わりで、いちばんおもしろいと思ったところを、みんなに紹介する文章を書いてみよう。」と示し、吹き出しで「ソネットに描かれている情景と音楽との関わりについて、聴き取ったことや感じ取ったことをまとめておきましょう。」と示している。 ・気がついたことや感じ取ったことを記録する欄を設けている。 ・『春』第1楽章と『秋』第1楽章を比べて、共通するところや、それぞれのよさなどについて、発表し交流してみよう。」と示している。
<p>教芸</p>	<p>○キャラクター(吹き出し)を使い、音楽を形づくっている要素などの〔共通事項〕を具体的に示しながら、主体的・対話的な学習をサポートしている。</p> <p><具体例>音楽2・3年上「情景を思い浮かべながら、言葉を大切に歌おう。」(P.18~23) 教材曲「夏の思い出」 活動文：「曲想と歌詞の結び付きに注目し、曲にふさわしい表現を工夫して歌いましょう。」 作者の意図を理解しながら歌唱表現を工夫することができるよう、意見を共有する場面を設定している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習活動1~4が示され(P.22~23)、3では楽譜の各段について、「音楽や歌詞から気付いたこと」と「どのように歌いたいか」を記入する表を設けている。 ・3の表では、「1 2で確かめたことを手がかりに、どのように歌いたいかを話し合っ、下の表に書き入れましょう。」と示している。 ・4では、「3で話し合ったことをもとに、自分たちの表現を工夫して歌いましょう。」と示している。 <p><具体例>音楽2・3年上「言葉の抑揚を生かして旋律をつくろう。」(P.36~37) 活動文：「課題に沿って、創意工夫して旋律をつくりましょう。」(課題：俳句に音を付けて4分の4拍子、4小節の旋律をつくる。言葉の抑揚に合った旋律をつくる。民謡音階を使う。最後はレ、ソ、<u>レ</u>のどれかの音で終わる。) 思いや意図を伝え合う場面を設定している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習活動①~④が示され、②では「中間発表をして、つくった旋律について意見交換をしましょう。」と示している。また、ワークシート欄には、「旋律をつくるときに工夫した点」の記入欄を設けている。 <p>実際に音を出して音楽表現を高めていく場面を設定している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習活動③では「意見交換したことを参考に旋律を完成させて、もう一度発表しましょう。」と示している。 <p><具体例>音楽1「音楽の特徴に注目しながら、情景を思い浮かべて聴こう。」(P.44~47) 教材曲「春—第1楽章—」 活動文：「作曲者が情景をどのように表現しているのかに注目しながら、音楽のよさや美しさを味わって聴きましょう。」 「合奏と独奏の対比や、曲の構成に気を付けながら聴きましょう。」</p>

教芸	<p>音楽を聴いて気付いたことや感じ取ったことなどの様々な意見を共有する場面を設定している。</p> <ul style="list-style-type: none">・「音楽を聴き、それぞれの部分について、聴き取ったことと、感じ取ったことを書き入れましょう。」と示し、記入する表を設けている。・「この曲のどのようなどころによさを感じましたか。また、その理由も発表しましょう。」と示している。キャラクターの吹き出しでは、「Bでヴァイオリンの独奏が小鳥の鳴いている様子をまねているのが印象的でした。」「爽やかな部分と激しい部分の対比がかっこいいと思いました。」と示している。
----	--

令和2年 7月 28日

呉市教科用図書選定委員会委員長 様

呉市教科用図書調査・研究委員会

種目 音楽(器楽合奏)

代表者 昭和北 中学校

氏名 泉谷正則

呉市教科用図書調査・研究報告書について (報告)

このことについては、別添のとおりです。

【音楽（器楽合奏）】

観 点	基礎・基本の定着
視 点	①題材や学習目標等の示し方
方 法	○題材・学習目標等の表記の仕方及び学習目標達成のための支援の具体例

発行者	調査・研究内容
教出	<p>【題材・学習目標等の表記の仕方】</p> <p>○目次では、各楽器の演奏法の基本を習得する部分「演奏の仕方を身につけよう」と、習得した技能を生かして合奏表現する部分「合わせて演奏しよう」の大きく2つに分かれている。合奏部分は比較的平易な「Let's Play!」とやや難易度のある「Let's Try!」に分かれており、最後に「名曲旋律集」としてソロで演奏できるよう10曲示している。</p> <p>○リコーダーでは、見開きページごとに左上に段階を踏まえた「学びのねらい」を示しており、その上で一つ一つの教材曲ごとに「学びのポイント」を示している。</p> <p>【学習目標達成のための支援の具体例】</p> <p><具体例></p> <p>段階を踏んで「タンギング」「一つの音で吹いてみよう」(P.6)でタンギングの習得を示し、「左手で吹こう①」(P.7)「左手で吹こう②」(P.8)「右手を加えてみよう」(P.10)「サミング」(P.12)「音域を広げよう」(P.14)「アーティキュレーション」(P.16)という項目で、それぞれ数曲を用いて演奏技術を高めていくよう示している。また、カノンで演奏できる曲を技術の段階に応じて3曲示し、早い段階から合奏の楽しさを味わえるように構成している。</p>
教芸	<p>【題材・学習目標等の表記の仕方】</p> <p>○目次では、各楽器の基本的な演奏法の習得部分と、アンサンブルをするにあたってのポイントを示しながら合奏できる「アンサンブルセミナー」、合奏表現のための「アンサンブル」、ソロを目的とした「楽器でMelody」などがある。次の「学習内容」のページでは、三つの資質・能力と、それに対応する学習内容や教材を図で示し、関連を色の濃さで表している。</p> <p>○リコーダーの「アンサンブルセミナー」(P.10~13)のコーナーでは、見開きページごとに左端に「学習目標」と音楽を形づくっている要素のうちの重点事項を示している。教材曲ごとに「活動文」を示し、右ページでそのポイントについて解説している。</p> <p>【学習目標達成のための支援の具体例】</p> <p><具体例></p> <p>はじめに「吹いてみよう」(P.19)のコーナーで、タンギングについて図入りで解説し、タンギングについて4段階の練習方法を示している。その後も段階を踏んでLESSON1「左手による運指」(P.20)、LESSON2「両手による運指」(P.24)、LESSON3「サミング」(P.26)、LESSON4「高い音、＃やbの付く音」(P.29)として、それぞれ数曲を用いて演奏技術を高めていくよう示している。また、Q&Aのコーナーで「きれいな音を出す秘訣はありますか？」(P.23)「低い音は、どうしたらきれいに出来ますか？」(P.24)「高い音は、どうしたらきれいに出来ますか？」(P.27)など、基本的な問いに対して解説している。</p>

【音楽（器楽合奏）】

観 点	基礎・基本の定着
視 点	②器楽の基礎・基本の定着を図るための工夫
方 法	○リコーダー及び和楽器の取扱い方

発行者	調査・研究内容																		
教出	<p>【リコーダーの取扱い方】</p> <p>○最初のページには、楽器名・楽器概説、演奏写真と演奏者から中学生へのメッセージ等を掲載している。ソプラノ・リコーダーとアルト・リコーダーの両方について掲載している。</p> <p>○練習曲には、アルト・リコーダーだけでなくソプラノ・リコーダーの楽譜も掲載している練習曲がある。ソプラノ・リコーダーのみの楽譜を掲載している練習曲もある。また、各曲に「学びのポイント」を示している。</p>																		
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>学習事項等</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学習の流れ</td> <td>吹いてみよう 各部の名称→姿勢とかまえ方→指穴の番号と指番号→チューニング→タンギング→一つの音で吹いてみよう→左手で吹こう①→左手で吹こう②→右手を加えてみよう→サミング→音域を広げよう→アーティキュレーション</td> </tr> <tr> <td>各部の名称</td> <td>リコーダーのイラストをもとに、構造や名称を示している。</td> </tr> <tr> <td>姿勢とかまえ方</td> <td>写真2枚（アルト・リコーダー1枚、ソプラノ・リコーダー1枚、斜めから見た写真）とポイントを「～しよう」等の文章で掲載している。</td> </tr> <tr> <td>指穴の番号と指番号</td> <td>イラストで掲載している。</td> </tr> <tr> <td>チューニング</td> <td>説明文と「ピッチの調整の仕方」がイラストで示されている。</td> </tr> <tr> <td>タンギング</td> <td>2つのイラスト（図A、B）と1つの表（図C）を交えて説明している。「リズム de ゴー」というタンギング練習曲を続いて掲載している。</td> </tr> <tr> <td>楽譜</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・一つの音で吹いてみよう（1曲）「リズム de ゴー」 ・左手で吹こう①（1曲）「しりとり歌」 ・左手で吹こう②（5曲）「チャイニーズ・ダンス」「喜びの歌」「オーラ・リー」「メリーさんの羊」「カノン1」 ・右手を加えてみよう（4曲）「うみ」「アメージング・グレイス」「ロング・ロング・アゴー」「ソナタK. 331」 ・サミング（4曲）「サムのひとりごと」「誰も知らない私の悩み」「レヴェル・プレイン」「カノン2」 ・音域を広げよう（4曲）「きらきら星」「浜辺の歌」「威風堂々」「カノン3」 ・アーティキュレーション（1曲）「大きな古時計」 ・「ブランデンブルグ協奏曲第2番から 第2楽章」 </td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ソプラノ・リコーダーとアルト・リコーダーの、「運指が共通の音の例」を5音示している。 ・曲を吹くために必要な運指を、ページ端に掲載している。 ・リコーダーの最終ページに、ソプラノ・リコーダーとアルト・リコーダーの2重奏の曲が掲載されており、鑑賞の活動とも関 </td> </tr> </tbody> </table>	学習事項等	内容	学習の流れ	吹いてみよう 各部の名称→姿勢とかまえ方→指穴の番号と指番号→チューニング→タンギング→一つの音で吹いてみよう→左手で吹こう①→左手で吹こう②→右手を加えてみよう→サミング→音域を広げよう→アーティキュレーション	各部の名称	リコーダーのイラストをもとに、構造や名称を示している。	姿勢とかまえ方	写真2枚（アルト・リコーダー1枚、ソプラノ・リコーダー1枚、斜めから見た写真）とポイントを「～しよう」等の文章で掲載している。	指穴の番号と指番号	イラストで掲載している。	チューニング	説明文と「ピッチの調整の仕方」がイラストで示されている。	タンギング	2つのイラスト（図A、B）と1つの表（図C）を交えて説明している。「リズム de ゴー」というタンギング練習曲を続いて掲載している。	楽譜	<ul style="list-style-type: none"> ・一つの音で吹いてみよう（1曲）「リズム de ゴー」 ・左手で吹こう①（1曲）「しりとり歌」 ・左手で吹こう②（5曲）「チャイニーズ・ダンス」「喜びの歌」「オーラ・リー」「メリーさんの羊」「カノン1」 ・右手を加えてみよう（4曲）「うみ」「アメージング・グレイス」「ロング・ロング・アゴー」「ソナタK. 331」 ・サミング（4曲）「サムのひとりごと」「誰も知らない私の悩み」「レヴェル・プレイン」「カノン2」 ・音域を広げよう（4曲）「きらきら星」「浜辺の歌」「威風堂々」「カノン3」 ・アーティキュレーション（1曲）「大きな古時計」 ・「ブランデンブルグ協奏曲第2番から 第2楽章」 	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ソプラノ・リコーダーとアルト・リコーダーの、「運指が共通の音の例」を5音示している。 ・曲を吹くために必要な運指を、ページ端に掲載している。 ・リコーダーの最終ページに、ソプラノ・リコーダーとアルト・リコーダーの2重奏の曲が掲載されており、鑑賞の活動とも関
	学習事項等	内容																	
	学習の流れ	吹いてみよう 各部の名称→姿勢とかまえ方→指穴の番号と指番号→チューニング→タンギング→一つの音で吹いてみよう→左手で吹こう①→左手で吹こう②→右手を加えてみよう→サミング→音域を広げよう→アーティキュレーション																	
	各部の名称	リコーダーのイラストをもとに、構造や名称を示している。																	
	姿勢とかまえ方	写真2枚（アルト・リコーダー1枚、ソプラノ・リコーダー1枚、斜めから見た写真）とポイントを「～しよう」等の文章で掲載している。																	
	指穴の番号と指番号	イラストで掲載している。																	
	チューニング	説明文と「ピッチの調整の仕方」がイラストで示されている。																	
	タンギング	2つのイラスト（図A、B）と1つの表（図C）を交えて説明している。「リズム de ゴー」というタンギング練習曲を続いて掲載している。																	
	楽譜	<ul style="list-style-type: none"> ・一つの音で吹いてみよう（1曲）「リズム de ゴー」 ・左手で吹こう①（1曲）「しりとり歌」 ・左手で吹こう②（5曲）「チャイニーズ・ダンス」「喜びの歌」「オーラ・リー」「メリーさんの羊」「カノン1」 ・右手を加えてみよう（4曲）「うみ」「アメージング・グレイス」「ロング・ロング・アゴー」「ソナタK. 331」 ・サミング（4曲）「サムのひとりごと」「誰も知らない私の悩み」「レヴェル・プレイン」「カノン2」 ・音域を広げよう（4曲）「きらきら星」「浜辺の歌」「威風堂々」「カノン3」 ・アーティキュレーション（1曲）「大きな古時計」 ・「ブランデンブルグ協奏曲第2番から 第2楽章」 																	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ソプラノ・リコーダーとアルト・リコーダーの、「運指が共通の音の例」を5音示している。 ・曲を吹くために必要な運指を、ページ端に掲載している。 ・リコーダーの最終ページに、ソプラノ・リコーダーとアルト・リコーダーの2重奏の曲が掲載されており、鑑賞の活動とも関 																		

	連付けられている。(P.17) ・巻末に「リコーダー運指表」が示されている。(P.99～99-①)
ページ数	14ページ

【和楽器の取扱い方】

- 楽器名・楽器概説, 演奏写真と演奏者から中学生へのメッセージを掲載している。
- それぞれの楽器を単独で, 篠笛 (5ページ) →尺八 (2ページ) →箏 (8ページ) →三味線 (8ページ) →太鼓 (6ページ) の順に示している。
- 各楽器の各部の名称, 姿勢とかまえ方, 奏法等を写真や図で示している。
- 「何が同じで, 何が違う?」(P.26, P.52) という項目で, 和楽器を含む様々な楽器の共通性と固有性を考えさせるページがある。
- 唱歌についての解説として, 尺八, 箏 (こと), 三味線, 太鼓の4種類について, 唱歌の言葉の違いを掲載している。(P.23)

篠笛

- ・学習事項として, 各部の名称, 姿勢とかまえ方, 運指を示している。(P.18～20)
- ・楽器ごとの楽曲「たこたこあがれ」「ひらいたひらいた」「さくらさくら」「子守歌」「祭囃子」
- ・合奏曲「一番星みつけた/夜空を見上げて」
- ・ページごとに毎回新しい運指を学習し, そのページのまとめの曲として練習曲を提示している。(P.20～22)

尺八

- ・学習事項として, 各部の名称, 姿勢とかまえ方, 運指, 音の出し方を示している。(P.24～25)
- ・楽器ごとの楽曲「もういいかい」(3音で演奏できる練習曲)

箏 (こと)

- ・学習事項として, 各部の名称, 柱の立て方, 爪, 調弦法, 姿勢とかまえ方, 親指による基本的な奏法を示している。(P.36～38)
- ・楽器ごとの楽曲 (鑑賞曲も含む)「さくらさくら」「荒城の月」「六段の調」「さくら変奏曲」
- ・合奏曲「荒城の月」「さくらさくら」「こきりこ節」「もののけ姫」
- ・箏による創作の活動を掲載している。(P.42)
- ・様々な奏法と鑑賞の活動を関連づけて掲載している。(P.43)

三味線

- ・学習事項として, 姿勢とかまえ方, 各部の名称, 糸と駒の準備, 調弦法, 基本的な奏法, 勘所の押さえ方, 三味線の楽譜を示している。(P.44～49)
- ・楽器ごとの楽曲 (鑑賞曲も含む)「さくらさくら」「長唄『勸進帳』から寄せの合方」
- ・五線譜と併せて文化譜を掲載している。
- ・三味線と打楽器のアンサンブルの曲を掲載しており, 鑑賞の活動とも関連付けている。(P.50～51)

太鼓

- ・学習事項として, 太鼓の種類, ばちについて, かまえ方と打ち方を掲載している。(P.54～59)

教出

教出	<ul style="list-style-type: none"> ・基本のリズム（4種類）を掲載している。 ・合奏曲「千の海響 望の章」 																						
教芸	<p>【リコーダーの取扱い方】</p> <p>○始めのページには、楽器名、演奏写真、鑑賞曲2曲、「楽器を知ろう」等を掲載している。ソプラノ・リコーダーとアルト・リコーダーの両方について掲載している。</p> <p>○練習曲には、アルト・リコーダーだけでなくソプラノ・リコーダーの楽譜も掲載している練習曲がある。</p>																						
	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="387 472 560 517">学習事項等</th> <th data-bbox="560 472 1347 517">内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="387 517 560 725">学習の流れ</td> <td data-bbox="560 517 1347 725">各部の名称→トーン ホール番号と指番号→チューニング→音域→楽器の手入れ→姿勢と構え方→タンギング→LESSON 1 [左手による運指] →アーティキュレーション→LESSON 2 [両手による運指] →LESSON 3 [サミング] →LESSON 4 [高い音, #やbの付く音] →リコーダーの種類</td> </tr> <tr> <td data-bbox="387 725 560 770">各部の名称</td> <td data-bbox="560 725 1347 770">リコーダーの写真をもとに、構造や名称を示している。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="387 770 560 853">トーンホール番号と指番号</td> <td data-bbox="560 770 1347 853">イラストで掲載している。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="387 853 560 898">チューニング</td> <td data-bbox="560 853 1347 898">説明文と「ピッチの調整の仕方」をイラストで示している。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="387 898 560 981">音域</td> <td data-bbox="560 898 1347 981">ソプラノ・リコーダーとアルト・リコーダーの両方を掲載している。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="387 981 560 1025">楽器の手入れ</td> <td data-bbox="560 981 1347 1025">文章で掲載している。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="387 1025 560 1189">姿勢と構え方</td> <td data-bbox="560 1025 1347 1189">写真2枚（アルト・リコーダーの正面と真横から見た写真）とポイントを短い文で掲載している。トーン ホールの閉じ方をイラストで掲載している。また、マウスピースのくわえ方の悪い例をイラストで2種類掲載している。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="387 1189 560 1397">タンギング</td> <td data-bbox="560 1189 1347 1397">3つのイラストを交えて説明している。準備→発音→止めまで図で示している。P. 19では、「tu」の発音と、音域や求める音質に応じた様々なタンギングを表にまとめて掲載している。また、低い音と高い音についてのタンギングは、それぞれを扱う場面でQ&Aの形で説明している。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="387 1397 560 1771">楽譜</td> <td data-bbox="560 1397 1347 1771"> <ul style="list-style-type: none"> ・LESSON 1 [左手による運指] (1曲)「喜びの歌」 ・アーティキュレーション (3曲)「さんぼ道」「かつこう」「そっと やさしく」 ・LESSON 2 [両手による運指] (3曲)「カノン1」「カノン2」「オーラ リー」 ・LESSON 3 [サミング] (4曲)「アニー ローリー」「虹の彼方に」「カノン3」「ラヴァーズ コンチェルト」 ・LESSON 4 [高い音, #やbの付く音] (4曲)「きらきら星」「威風堂々」「木かげの思い出」「ふるさと」 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="387 1771 560 2022">その他</td> <td data-bbox="560 1771 1347 2022"> <ul style="list-style-type: none"> ・『美しい音』は『よい姿勢』から「音の響かせ方」「音を合わせるときのコツ」について掲載している。 ・曲を吹くために必要な運指を、ページ端に掲載している。 ・リコーダーの種類を、写真と音域を全8種類示している。(P. 31) ・巻末に「リコーダーの運指表」を示している。(P. 100~101) </td> </tr> </tbody></table>	学習事項等	内容	学習の流れ	各部の名称→トーン ホール番号と指番号→チューニング→音域→楽器の手入れ→姿勢と構え方→タンギング→LESSON 1 [左手による運指] →アーティキュレーション→LESSON 2 [両手による運指] →LESSON 3 [サミング] →LESSON 4 [高い音, #やbの付く音] →リコーダーの種類	各部の名称	リコーダーの写真をもとに、構造や名称を示している。	トーンホール番号と指番号	イラストで掲載している。	チューニング	説明文と「ピッチの調整の仕方」をイラストで示している。	音域	ソプラノ・リコーダーとアルト・リコーダーの両方を掲載している。	楽器の手入れ	文章で掲載している。	姿勢と構え方	写真2枚（アルト・リコーダーの正面と真横から見た写真）とポイントを短い文で掲載している。トーン ホールの閉じ方をイラストで掲載している。また、マウスピースのくわえ方の悪い例をイラストで2種類掲載している。	タンギング	3つのイラストを交えて説明している。準備→発音→止めまで図で示している。P. 19では、「tu」の発音と、音域や求める音質に応じた様々なタンギングを表にまとめて掲載している。また、低い音と高い音についてのタンギングは、それぞれを扱う場面でQ&Aの形で説明している。	楽譜	<ul style="list-style-type: none"> ・LESSON 1 [左手による運指] (1曲)「喜びの歌」 ・アーティキュレーション (3曲)「さんぼ道」「かつこう」「そっと やさしく」 ・LESSON 2 [両手による運指] (3曲)「カノン1」「カノン2」「オーラ リー」 ・LESSON 3 [サミング] (4曲)「アニー ローリー」「虹の彼方に」「カノン3」「ラヴァーズ コンチェルト」 ・LESSON 4 [高い音, #やbの付く音] (4曲)「きらきら星」「威風堂々」「木かげの思い出」「ふるさと」 	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・『美しい音』は『よい姿勢』から「音の響かせ方」「音を合わせるときのコツ」について掲載している。 ・曲を吹くために必要な運指を、ページ端に掲載している。 ・リコーダーの種類を、写真と音域を全8種類示している。(P. 31) ・巻末に「リコーダーの運指表」を示している。(P. 100~101)
	学習事項等	内容																					
	学習の流れ	各部の名称→トーン ホール番号と指番号→チューニング→音域→楽器の手入れ→姿勢と構え方→タンギング→LESSON 1 [左手による運指] →アーティキュレーション→LESSON 2 [両手による運指] →LESSON 3 [サミング] →LESSON 4 [高い音, #やbの付く音] →リコーダーの種類																					
	各部の名称	リコーダーの写真をもとに、構造や名称を示している。																					
	トーンホール番号と指番号	イラストで掲載している。																					
	チューニング	説明文と「ピッチの調整の仕方」をイラストで示している。																					
	音域	ソプラノ・リコーダーとアルト・リコーダーの両方を掲載している。																					
	楽器の手入れ	文章で掲載している。																					
	姿勢と構え方	写真2枚（アルト・リコーダーの正面と真横から見た写真）とポイントを短い文で掲載している。トーン ホールの閉じ方をイラストで掲載している。また、マウスピースのくわえ方の悪い例をイラストで2種類掲載している。																					
タンギング	3つのイラストを交えて説明している。準備→発音→止めまで図で示している。P. 19では、「tu」の発音と、音域や求める音質に応じた様々なタンギングを表にまとめて掲載している。また、低い音と高い音についてのタンギングは、それぞれを扱う場面でQ&Aの形で説明している。																						
楽譜	<ul style="list-style-type: none"> ・LESSON 1 [左手による運指] (1曲)「喜びの歌」 ・アーティキュレーション (3曲)「さんぼ道」「かつこう」「そっと やさしく」 ・LESSON 2 [両手による運指] (3曲)「カノン1」「カノン2」「オーラ リー」 ・LESSON 3 [サミング] (4曲)「アニー ローリー」「虹の彼方に」「カノン3」「ラヴァーズ コンチェルト」 ・LESSON 4 [高い音, #やbの付く音] (4曲)「きらきら星」「威風堂々」「木かげの思い出」「ふるさと」 																						
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・『美しい音』は『よい姿勢』から「音の響かせ方」「音を合わせるときのコツ」について掲載している。 ・曲を吹くために必要な運指を、ページ端に掲載している。 ・リコーダーの種類を、写真と音域を全8種類示している。(P. 31) ・巻末に「リコーダーの運指表」を示している。(P. 100~101) 																						

【和楽器の取扱い方】

- 楽器名, 演奏写真, 各楽器の奏者からのメッセージ, 「楽器を知ろう」を掲載している。また, 各楽器の1ページ目に鑑賞曲1曲と参考曲1曲を掲載しており, 鑑賞を関連付けている。(箏P.40, 三味線P.50, 太鼓P.56, 篠笛P.62, 尺八P.66)
- それぞれの楽器を単独で, 箏(10ページ)→三味線(6ページ)→太鼓(6ページ)→篠笛(4ページ)→尺八(3ページ)の順に示している。
- 各楽器の各部の名称, 姿勢と構え方, 奏法等を写真や図で示している。
- 唱歌についての解説として, 各楽器固有の唱歌の特徴や歌い方のポイントを楽器ごとに掲載している。(箏P.46, 三味線P.55, 太鼓P.59, 篠笛P.64, 尺八P.68)
- 篠笛, 締太鼓, 長胴太鼓による「MATSURI」, 三味線, 大鼓, 小鼓による「『寄せの合方』によるリズムアンサンブル」を合奏曲として掲載している。
- 「楽しもう!和楽器の音楽」として, 部活動を通して, 和楽器の合奏に取り組んでいる中学生の様子を紹介している。

箏

- ・学習事項として, 各部の名称, 柱の立て方, 爪, 調弦, 姿勢と構え方, 基本的な奏法を掲載している。(P.40~43)
- ・いろいろな奏法として, かき爪, 割り爪, 押し手, 押放, 引き色, 合せ爪の6種類を示している。(P.47)
- ・楽器ごとの楽曲「虫づくし」「姫松」「『六段の調』から“四段”」「さくらさくら」「少年時代」「夏祭り」
- ・3つの学習段階で, 練習曲が4曲掲載されている。縦譜と五線譜の両方がある。
- ・箏による旋律創作の活動を掲載している。(P.49)

三味線

- ・学習事項として, 各部の名称, 調弦, ばちの扱い方, 姿勢と構え方, 基本的な奏法, 勘所の押さえ方を掲載している。(P.50~54)
- ・楽器ごとの楽曲「こきりこ」「荒城の月」
- ・練習曲を1曲掲載している。五線譜と併せて文化譜を掲載している。

太鼓

- ・種類, 姿勢と構え方, ばちの持ち方, 打ち方を掲載している。(P.56~58)
- ・基本のリズム(6種類)と練習曲を1曲掲載している。
- ・楽器ごとの楽曲「天高く鳴り響け」

篠笛

- ・学習事項として, 各部の名称, 姿勢と構え方, 音の出し方, 運指, 指打ちを掲載している。(P.62~64)
- ・2つの学習段階で練習曲を3曲掲載している。
- ・楽器ごとの楽曲「たこたこ あがれ」「ほたるこい」「火祭りの踊り」「もののけ姫」

尺八

- ・学習事項として, 各部の名称, 構え方, 基本の音と運指, 姿勢と音の出し方を掲載している。(P.66~68)
- ・楽器ごとの楽曲「夕やけ こやけ」

教芸

【音楽（器楽合奏）】

観 点	主体的に学習に取り組む工夫
視 点	③興味・関心を高めるための工夫
方 法	○資料や巻頭の内容

発行者	調査・研究内容
教出	<p>○写真や絵図，楽譜等を掲載し，視覚的に，生徒が興味・関心を高められるようにしている。</p> <p>【資料の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「打楽器」(P. 98) <ul style="list-style-type: none"> 「小太鼓 (スネアドラム)」, 「大太鼓 (バสดラム)」, 「ボンゴ」, 「コンガ」, 「カホン」 の演奏写真と演奏方法等を掲載している。 ・「リコーダー運指表」(P. 99～99-①) <ul style="list-style-type: none"> 「リコーダー運指表」はソプラノ・アルト・テノール・バスの運指表をリコーダーの絵とともに掲載している。また, 「リコーダーの変遷」やソプラノ, アルト, テノール, バスの演奏写真を掲載している。 ・「ギター&キーボード コード表」(口絵③, 口絵④) <ul style="list-style-type: none"> 左手で弦を実際に押さえている写真と, コード (数字付き) と五線譜, 鍵盤を掲載している。 ・「いろいろな用語, 記号」(巻末) <ul style="list-style-type: none"> 「速度や速度の変化」, 「強弱や強弱の変化」, 「反復」, 「階名と音名」を掲載している。「速度や速度の変化」, 「強弱や強弱の変化」については, 速度や強弱の変化が視覚的に分かるよう, 図で示している。 ・「名曲旋律集」(P. 94～97) <ul style="list-style-type: none"> ソプラノ・リコーダー, アルト・リコーダー, 箏, ギターで演奏できるよう, 「シューベルトの子守歌」や「ブルタバ (モルダウ) (連作交響詩『我が祖国』から)」等のヨーロッパを中心とした曲の楽譜を10曲掲載している。また, 各曲名の下には曲についての説明を掲載している。 <p>【巻頭の内容】(全てカラー写真)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「さまざまな音色 (おんしよく) や響きと奏法」(巻頭, 口絵①) <ul style="list-style-type: none"> 日本の和楽器から諸外国の楽器が, 9枚の演奏写真とともに掲載している。また, 写真の演奏者名, 楽器の関連ページを掲載している。 ・「With My Heart 音楽はメッセージ 心をこめて 中学生のみなさんへ」(口絵②) <ul style="list-style-type: none"> 箏と篠笛の演奏家からのメッセージと写真を掲載している。

○写真や絵図、楽譜等を掲載し、視覚的に、生徒が興味・関心を高められるようにしている。

【資料の内容】

・「日本音楽の楽器編成」(P.69)

日本音楽における、「雅楽(管絃)」、「能・狂言」、「歌舞伎(長唄)」、「文楽(義太夫節)」、「三曲合奏」、「郷土の芸能、民謡など」の楽器編成を、写真とともに表で掲載している。

・「バンドの世界をのぞいてみよう」(P.75)

「MONGOL800」の紹介と、「小さな恋のうた」のバンドスコアの一部を掲載している。

・「リコーダーの運指表」(P.100~101)

「リコーダーの運指表」はソプラノ・アルト・テノール・バスの運指表をリコーダーの写真とともにカラーで掲載している。バスやアルトの場合の運指については、他の色で表記している。また、「替え指を活用しよう」や「リコーダーの仲間」も写真付き等で掲載している。

・「ギター/キーボード コード表」(P.102~103)

左手で弦を実際に押さえている絵と、コードと五線譜、鍵盤を掲載している。また、指のどの辺りで弦を押さえているかが分かるように、青い丸で印をつけて示している。

・「楽器の図鑑」(P.104~105)

世界のさまざまな楽器を「和楽器」、「世界の諸民族の楽器」、「電子楽器」、「鍵盤楽器」、「打楽器」、「管楽器」、「弦楽器」の7つに分類し、各分類に属する楽器の写真と名称で掲載している。

・「音楽の約束」(P.106)

「音符と休符」、「音高の変化に関するもの」、「速度に関するもの」、「音の強弱に関するもの」、「演奏の仕方に関するもの」、「反復の仕方に関するもの」を掲載している。

・「楽しもう！和楽器の音楽」(P.107)

太鼓による合奏、箏による合奏等の写真や、演奏する中学生へのインタビュー内容を掲載している。

・「楽器でMelody」(P.96~99)

名曲の旋律をソプラノ・リコーダー、アルト・リコーダー、箏、三味線、篠笛で演奏できるよう、「世界に一つだけの花」や「木星(管弦楽組曲『惑星』から)」等のポピュラーやクラシック等、幅広いジャンルから9曲掲載している。

【巻頭の内容】(全てカラー写真)

・「ピアノで語るといふこと」(P.2~3)

反田恭平氏(ピアニスト)の写真と言葉を掲載している。

・「音楽ってなんだろう?~楽器と人~」(P.4~5)

日本や諸外国の楽器の演奏写真が17枚と、小沼純一氏(音楽・文芸批評家)の言葉を掲載している。

【音楽（器楽合奏）】

観 点	主体的に学習に取り組む工夫
視 点	④和楽器の学習の扱いとその活用を図る学習活動の工夫
方 法	○箏の学習展開の工夫

発行者	調査・研究内容
教出	<p>○名称やかまえ方，基礎的な奏法等を写真と説明書きで示し，練習曲1，2と箏の曲「さくらさくら」，そして箏での創作まで順を追って掲載している。箏曲の冒頭部分の演奏や，鑑賞にもつなげてある。</p> <p>【箏の学習展開の工夫】(P.36～43)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の流れ <p>各部の名称→柱の立て方→爪→調弦法→姿勢とかまえ方→親指による基本的な奏法→「練習曲1，2」，「さくらさくら」→奏法（押し手）→「荒城の月」→音のスケッチ「平調子の響きを生かして『荒城の月』の前奏をつくってみよう」→「箏曲『六段の調』に挑戦！」→「さくら変奏曲」（鑑賞教材）</p> ・基本的な奏法 <p>演奏者を正面から見た角度と上から見た角度の写真を掲載している。親指による基本的な奏法について説明している。</p> ・基礎的な奏法の活用を図る学習活動 <p>「音のスケッチ」として，平調子の響きを生かして「荒城の月」の前奏を創作する活動を設定している。</p> <p>活動1 「『荒城の月』の歌詞の内容や，感じ取った曲想に合った表現をイメージして，2小節の前奏をつくろう。できあがったら弦名を記録しておこう。」</p> <p>活動2 「前奏を1回繰り返して演奏し，それに続けて『荒城の月』を弾きながら歌ってみよう。」</p> <p>活動3 「表現したかったイメージをまとめ，発表しよう。」</p> <p>キャラクターが「前奏に押し手を取り入れてもいいよ。」と発言し，学習した奏法の活用を促している。</p> ・楽譜 <p>縦譜と五線譜（音符の下に漢数字での弦名）の2種類を示している。</p> ・資料 <p>「お箏（こと）の世界へ」として黒川真理のメッセージ（P.36）を掲載している。</p> <p>鑑賞教材「さくら変奏曲（宮城道雄）」（P.43）を掲載している。</p> ・ページ数 <p>8ページ</p>

○名称や構え方，基礎的な奏法等を写真と説明書きで示し，箏の曲を3曲掲載している。いろいろな奏法が写真と説明書きで示してあり，次の曲に生かせるようになっている。最後には，「My Melody」として箏で創作活動ができるように書き込める縦譜がある。

【箏の学習展開の工夫】(P.40～49)

・学習の流れ

各部の名称→柱の立て方→爪→調弦→姿勢と構え方→基本的な奏法→「虫づくし」，「姫松」，『六段の調』から“四段”→いろいろな奏法→「さくらさくら」→「My Melody」(日本の音階を使ってまとまりのある旋律をつくろう。)

・基本的な奏法

演奏者を正面から見た角度と上から見た角度の写真に掲載している。親指，中指・人さし指による基本的な奏法について説明している。

・基礎的な奏法の活用を図る学習活動

「My Melody」として，都節音階と律音階のどちらかを選んで旋律をつくる活動を設定している。

- ① 1小節目をつくりましょう。
- ② 1小節目を反復させて，2小節目をつくりましょう。
- ③ 1～2小節目から変化させて，3～4小節目をつくりましょう。

キャラクターによる吹き出しで，『いろいろな奏法』(p.47)を参考にして，箏の音色を生かしてもいいね。」と，学習した奏法の活用を促している。

・楽譜

「家庭式縦譜」と五線譜(音符の下に漢数字での弦名)の2種類を示している。

・資料(P.40)

「遠藤千晶さんからのメッセージ」を掲載している。

「箏の演奏を聴こう」として，鑑賞教材『手事』から第3楽章“輪舌”(宮城道雄)参考曲「千鳥の曲(二世吉沢検校)」を掲載している。

「楽器を知ろう」を掲載している。

「箏のさまざまな演奏」を掲載している。

「和楽器こぼれ話 箏と琴」を示している。

・ページ数

10ページ

【音楽（器楽合奏）】

観 点	内容の構成・配列・分量
視 点	⑤教材の分量及び構成
方 法	○楽器別カテゴリー別教材数, 合奏・アンサンブルのカテゴリー別教材数, 内容の構成

発行者	調査・研究内容
教出	<p>○リコーダー, 篠笛, 尺八, ギター, 箏, 三味線, 太鼓の7種類を扱っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リコーダー(29) クラシック音楽(13), 日本歌曲(2), 世界の民謡(9), その他・オリジナル等(5) ・篠笛(5) 日本古来の曲(2), わらべうた(2), その他・オリジナル等(1) ・尺八(1) わらべうた(1) ・ギター(5) 世界の民謡(4), 映画・ポピュラー音楽等(1) ・箏(6) 日本歌曲(2), 日本古来の曲(2), その他・オリジナル等(2) ・三味線(2) 日本古来の曲(2) ・太鼓 ※アンサンブルに1曲含む ・アンサンブル曲集(23) <ul style="list-style-type: none"> Let's Play! クラシック音楽(5), 日本歌曲(3), 日本古来の曲(1), Let's Try! わらべうた(1), 日本の民謡(1), 世界の民謡(1), 映画・ポピュラー音楽等(5), その他・オリジナル等(6) ・名曲旋律集(10) ・資料 打楽器, リコーダーの運指表, ギター&キーボードコード表, いろいろな用語, 記号
教芸	<p>○リコーダー, ギター, 箏, 三味線, 太鼓, 篠笛, 尺八, 打楽器の8種類を扱っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンサンブルセミナー(3) ・リコーダー(20) クラシック音楽(7), 日本歌曲(1), 世界の民謡(7), 映画・ポピュラー音楽等(4), その他・オリジナル等(1) ・ギター(2) 世界の民謡(1), 映画・ポピュラー音楽等(1) ・箏(6) 日本古来の曲(4), 映画・ポピュラー音楽等(2) ・三味線(2) 日本古来の曲(1), 日本の民謡(1) ・太鼓(1) その他・オリジナル等(1) ・篠笛(4) わらべうた(2), 映画・ポピュラー音楽等(1) その他・オリジナル等(1) ・尺八(1) わらべうた(1) ・打楽器(15種類)奏法について ・アンサンブル曲集(15) ・楽器でMelody(9) ・資料 日本音楽の楽器編成, バンドの世界をのぞいてみよう, リコーダーの運指表, ギター/キーボードコード表, 楽器の図鑑, 音楽の約束, 楽しもう!和楽器の音楽

【音楽（器楽合奏）】

観 点	内容の表現・表記
視 点	⑥ [共通事項] の指導を充実させる工夫
方 法	○音楽を形づくっている要素の示し方と指導の工夫

発行者	調査・研究内容
教出	<p>【音楽を形づくっている要素の示し方】</p> <p>○「合わせて演奏しよう『Let's Play!』『Let's Try!』(P.60~93)では、それぞれの曲名の下に、音楽を形づくっている要素に関連させて「学びのポイント」を示している。</p> <p><具体例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・Let's Play! 「もみじ」(P.60) 「主旋律と他の旋律との関わりを意識して表現を工夫しよう。」 ・Let's Play! 「故郷」(P.61) 「拍子や速度などが生み出す雰囲気味わいながら演奏しよう。」 ・Let's Try! 「キエフの大門（組曲『展覧会の絵』から）」(P.72) 「全体の響きを感じ取って、合わせて表現しよう。」 ・Let's Try! 「風のとおり道（『となりのトトロ』から）」(P.73) 「旋律のまとまりを感じ取って演奏しよう。」 <p>【指導の工夫】</p> <p>○唱歌を取り入れて音楽の特徴を捉えさせるよう、指導の工夫がある。 尺八、箏（こと）、三味線、太鼓では、唱歌の説明や例とともに、キャラクターによるセリフで、「実際に唱歌を唱えてみましょう。」(P.23)と示している。</p> <p><具体例></p> <p>「唱歌について」(P.23) 「祭囃子」(p.22)に表記された「チ ヒヤイ ヒヤイ トロ」や「天 テレ ツク ツク」といった言葉が唱歌と呼ばれること、またこれは楽器の音をまねしたもので、唱歌は、旋律や奏法を覚えたり伝えたりするために用いられることを解説している。</p>

【音楽を形づくっている要素の示し方】

○「アンサンブルセミナー」(P.10～15)では、見開き左ページ下に、学習内容に即した音楽を形づくっている要素を示している。また、右ページに、「深めよう！音楽」として、「アーティキュレーションの工夫」や「パートの役割」、「曲の構成」を、キャラクターによって説明している。

<具体例>

「聖者の行進」(P.10～11)

旋律、テクスチュア

「千の風になって」(P.12～13)

音色、リズム、旋律、テクスチュア

○「アンサンブル」(P.76～95)では、曲名の横に音楽を形づくっている要素に関連した学習のねらいを掲載している。

<具体例>

「Edelweiss (ミュージカル『The Sound Of Music』から)」(P.76)

学習のねらい：「主旋律(A1)に対して、A2の旋律がどのように重なっているのかを考え、その効果を味わいながら演奏しましょう。」

「MATSURI」(P.92～93)

学習のねらい：「旋律やリズムの特徴を生かした表現を工夫しましょう。強弱の変化や各パートの音量のバランスに気を付けて演奏しましょう。」

教芸

【指導の工夫】

○唱歌を取り入れて、音楽の特徴を捉えさせるよう、指導の工夫がある。箏の唱歌では、唱歌の説明とともに、箏の唱歌の例が示され、唱歌を歌う際のポイントも示している。

<具体例>

『六段の調』から“四段”(P.46)

「唱歌を歌ったり楽器を弾いたりしながら、箏の音楽の特徴を感じ取りましょう。」として、歌う時のポイントを次のように示している。

- ・拍を取りながら大きな声で歌う。
- ・唱歌の右横に] で示した「旋律のまとまり」に気を付けて歌う。
- ・箏の演奏に合わせて唱歌を歌い、曲の流れを感じ取る。

【音楽（器楽合奏）】

観 点	言語活動の充実
視 点	⑦器楽分野における言語活動の工夫
方 法	○音楽科の特質に応じた言語活動の具体例

発行者	調査・研究内容
教出	<p>○「話し合おう」という吹き出しと、自分の意見をまとめて記入する欄を設けている。</p> <p>○表したい思いや意図を言葉で伝え合う場面を設定している。</p> <p><具体例></p> <p>「何が同じで、何が違う？PART-1」(P.26)</p> <p>話し合おう：「それぞれの楽器の特徴を踏まえて、共通点や相違点について考えてみよう。そして気がついたことを友達に紹介しよう。」</p> <p>「合わせて演奏しよう」(音のスケッチ) (P.71)</p> <p>教材曲「不思議な旋律PART-1」</p> <p>学びのポイント：「楽器の音色（おんしょく）や響きを生かし、全体の構成を工夫しながら表現しよう。」</p> <p>表したい思いや意図を言葉で伝え合う場面の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「グループに分かれて基本形を演奏します。速度や強弱などは、グループで話し合って確認しておきましょう。」「基本形に慣れたら、オプションパート伴奏A～伴奏Dから選んで加えて演奏してみよう。旋律はアーティキュレーションを工夫したり、『ラ』や『ル』など声で表現したりしてみよう。」「基本形にオプションパートを加え、構成を工夫した形が仕上がったら、グループごとに発表してみよう。」と示している。
教芸	<p>○「深めよう！音楽」で、キャラクター(吹き出し)や、学びを引き出すための例示を設けている。</p> <p>○表したい思いや意図を言葉で伝え合う場面を設定している。</p> <p><具体例></p> <p>「曲想を感じ取って、表情豊かに演奏しよう。」(P.10～11)</p> <p>教材曲「聖者の行進」</p> <p>活動文：「アーティキュレーション (p.21) を参考にしながら、曲にふさわしい表現を工夫して演奏しましょう。」</p> <p>表したい思いや意図を言葉で伝え合う場面の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習過程を1, 2で示し、2において「1で感じ取ったことをもとに、友達と話し合いながら曲全体のアーティキュレーションを決め、2つのパートに分かれて演奏しましょう。」と示し、キャラクターの吹き出しで「長くのばす音にはどんなアーティキュレーションを使えばいいかな？」「アイデアを楽譜に書いておくと演奏に役立つね。」「アーティキュレーションを工夫すると、より表情豊かな演奏になるね。」と示している。

「全体の響きを確認しながら演奏しよう。」(P. 12~13)

教材曲「千の風になって」

活動文：「パートの役割に合った楽器を選び、曲にふさわしい表現を工夫して演奏しましょう。」

表したい思いや意図を言葉で伝え合う場面の設定

- ・学習過程を1, 2, 3で示し, 3において「選んだ楽器で実際に演奏し, 全体の響きを確認しましょう。」と示し, キャラクターの吹き出しで「パートによって音の高さを1オクターヴ変えると感じが変わるね。」「1回目と2回目で楽器や音の高さを変えて, 響きを変化させてもいいね。」と示している。

令和2年 7月28日

呉市教科用図書選定委員会委員長 様

呉市教科用図書調査・研究委員会

種目 美術

代表者 明德 中学校

氏名 畑尻佳祐

呉市教科用図書調査・研究報告書について（報告）

このことについては、別添のとおりです。

【美術】

観 点	基礎・基本の定着
視 点	①題材の目標等の示し方
方 法	○題材の目標等の表記の仕方と具体例

発行者	調査・研究内容
開隆堂	<p>【題材の目標等の表記の仕方】</p> <p>○ 題材を通して身につけたい力である「知識や技能に関する目標。」「思考力・判断力・表現力に関する目標。」「学びに向かう力に関する目標。」を「知」「思」「学」の漢字のマークで示している。</p> <p>○ 「学習のポイント」を示している。</p> <p>【具体例】</p> <p>第1学年 「心ひかれる風景」 P 1 2, 1 3</p> <p>「知」 風景のとらえ方を理解し、色彩や構図を工夫して表そう。</p> <p>「思」 身近な風景から感じ取ったよさや美しさをもとに表したいことを考えよう。</p> <p>「学」 身近な場所を表すことに関心を持ち、表現することを楽しもう。</p> <p>「学習のポイント」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 身近な風景を観察し、よさや美しさを見つけよう。 <p>第2・3学年 「パッケージで魅力を伝える」 P 7 2, 7 3</p> <p>「知」 形や色彩、材料の性質を理解し、パッケージの形や装飾を工夫しよう。</p> <p>「思」 機能的で美しいパッケージデザインを考えよう。</p> <p>「学」 パッケージデザインに関心を持ち、主体的に表現しよう。</p> <p>「学習のポイント」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中身を魅力的に見せるパッケージデザインとはどのようなものか話し合ってみよう。
光村	<p>【題材の目標等の表記の仕方】</p> <p>○ 題材で身につける力を「目標」として題材名の下に示している。</p> <p>○ 活動の手立てとなる文章を「表現」と「鑑賞」の領域で区分して示している。</p> <p>【具体例】</p> <p>第1学年 「心ひかれるこの風景」 P 2 2～2 5</p> <p>○ 自分が心ひかれる風景を見つけ、そのときの気持ちをどのようにあらわすか考えて、工夫して描く。</p> <p>○ 作品を鑑賞し、その風景を描いた作者の思いや表現の工夫を感じ取る。</p> <p>「鑑賞」 作者はこの風景のどこに心ひかれたのだろうか。想像してみよう。</p> <p>「表現」 少し視点を変えるだけで、日常の風景が急に生き生きと見えてくることがある。見慣れた風景を、新しい視点で捉え直してみよう。</p>

<p>光村</p>	<p>「表現」 学校の「とっておきの場所」を描こう。 「鑑賞」 生徒作品の構図や色づかひの工夫を見てみよう。</p> <p>第2・3学年 「地域の魅力を伝える」 P70～73</p> <p>○ 自分が住む地域の魅力が多くの人に伝わるようなデザインを考え、表現方法を工夫してあらわす。 ○ お土産のパッケージや地域のキャラクターなどを鑑賞し、デザインの意図や工夫を感じ取る。</p> <p>「鑑賞」 これらの商品やキャラクターなどは、地域のどのような特色を紹介しているだろうか。 地域の魅力を伝えるために、どのような工夫をしているか話し合おう。</p> <p>「表現」 自分が住む地域の魅力を伝えるデザインには、どのようなものがあるだろうか。どのように地域のよさを伝えたいか、考えてみよう。</p> <p>「表現」 地域の名産を使ったお土産のパッケージを考えよう。 「鑑賞」 生徒作品を鑑賞し、工夫している点を考えよう。</p>
<p>日文</p>	<p>【題材の目標等の表記の仕方】</p> <p>○ 題材ごとに身につけたい力を、「造形的な見方を豊かにする視点や、技能に関する目標」、「発想や構想、鑑賞に関する目標」、「主体的に学習に取り組むための目標」として、独自のマークで示している。</p> <p>○ 題材名とともに、活動や目的を表すサブタイトルをつけ、学習の目的を示している。</p> <p>【具体例】</p> <p>第1学年 「あなたなりの視点で描く なぜか気になる情景」 P16, 17</p> <p>「知」 形や色彩、全体の様子などに着目し、そこから生じるイメージをとらえ、絵の具の使い方を工夫して表す。 「思」 身近な場所のイメージなどをもとに、形や色彩、構図などの工夫を考え、構想を練ったり鑑賞したりする。 「学」 気になる場所を見つけ、その特徴をとらえて表すことに興味を持ち、意欲的に取り組む。</p> <p>第2・3学年 下「中身や気持ちを工夫して表す 魅力を伝えるパッケージ」 P38, 39</p> <p>「知」 形や色彩、質感などに着目し、意図やイメージをとらえ、材料や用具の特性を生かし、見通しを持って表す。 「思」 伝える目的や条件、中身のイメージをもとに、美しさと伝達の効果などを考え、構想を練ったり、鑑賞をしたりする。 「学」 中身のイメージなどから、パッケージをデザインすることに関心を持ち、意欲的に取り組む。</p>

【美術】

観 点	基礎・基本の定着
視 点	②〔共通事項〕を視点とした学びの示し方
方 法	○〔共通事項〕を視点とした学びの示し方と具体例

発行者	調査・研究内容
開隆堂	<p>【〔共通事項〕を視点とした学びの示し方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「学習のポイント」や「発想・構想の方法や学習の進め方」など、〔共通事項〕に着目するように促すコメントをマークとともに掲載している。 ○ 作家や生徒の作品には、表現意図とともに〔共通事項〕を踏まえた作者の言葉を掲載している。 <p>【具体例】</p> <p>第1学年「よみがえる材料」 P 20, 21</p> <p>「学習のポイント」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 使われなくなったものを集めておこう。 <p>「生徒作品・作者の言葉」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ はじめに設計図などは描かず、制作をしながら形を決めていくので、思いもよらぬところに、パーツがピタリとはまったときが楽しいです。大自然の動物たちと都市の廃材との対比に、いろいろなメッセージを感じてほしいです。 ・ 材料をつけるときは、針金やモールを巻きつけて、できるだけ接着剤を使わない方法でつくりました。 <p>第2・3学年「明かりの形」 P 80, 81</p> <p>「学習のポイント」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 光の透過性を考えて材料を選び、表現方法を工夫しよう。 <p>「光の効果を確かめる」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 材料と色を含めた光源の違いによる影の変化も見てみよう。 <p>「作家の作品・作者の言葉」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 和紙を透かしてくる明かりは、ほどよく光を分散させて部屋全体に柔らかい光を流してくれる。「AKARI」は光そのものが彫刻であり、陰のない彫刻作品なのです。 <p>「生徒作品・作者の言葉」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ドレスのすその形の美しさを追求した。色にもこだわった。
光村	<p>【〔共通事項〕を視点とした学びの示し方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ページの構成を表現と鑑賞の活動に区分し、はじめに〔共通事項〕を視点とした活動を促す文章を掲載している。 ○ 生徒の作品には、「作者の言葉」として、表現意図とともに〔共通事項〕を踏まえた作家の言葉を掲載している。 <p>【具体例】</p> <p>第1学年「材料に命を吹き込む」 P 28, 29</p> <p>「鑑賞」 材料の特徴や性質をどう組み合わせているだろう。それぞれの作品の工夫を見つけてみよう。</p>

<p>光村</p>	<p>「表現」 材料の特徴を生かし、形や色を組み合わせる作品をつくろう。</p> <p>「作家の作品・作者の言葉」</p> <ul style="list-style-type: none"> どんな動物も顔からつくり始めます。顔ができると表情が生まれ、性別や性格が感じられるような気がして、その顔に合わせて材料を選び、体の動きや形、色を考えていきます。 <p>「生徒作品・作者の言葉」</p> <ul style="list-style-type: none"> 幸運をもたらす幻の鳥です。材料には金属を使って統一感を出しました。羽をきれいに神秘的に見せるために形や色を工夫しました。 学校の周辺で見つけた材料でつくりました。リスがどんぐりをくわえている感じが出るように工夫しました。 <p>第2・3学年「あかりがつくる空間」P66, 67</p> <p>「鑑賞」 それぞれのあかりから、どのような印象を受けるだろう。あなたなら、どんな場所で使いたいだろう。</p> <p>「表現」 空間を演出するあかりをつくろう。</p> <p>「生徒作品・作者の言葉」</p> <ul style="list-style-type: none"> 夜景が好きなので、ビルやマンション、学校などの窓から漏れる光をあらわしました。建物だけでなく空の色も表現しました。 寂しいときも寄り添ってくれるような優しい光にしたかったので、花を題材に選びました。 壮大な宇宙にあるさまざまな光を一つの作品にあらわしました。石膏テープを通して漏れる光は、満点の星空のイメージです。
<p>日文</p>	<p>【〔共通事項〕を視点とした学びの示し方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「造形的な視点」を吹き出しで示し、〔共通事項〕に着目するように促したり、〔共通事項〕に着目した活動を促す資料や文章を掲載したりしている。 ○ 生徒の作品には、「作者の言葉」として、表現意図とともに〔共通事項〕を踏まえた作者の言葉を掲載している。 <p>【具体例】</p> <p>第1学年「じっくり見て、感じながらつくる 材料に命を吹き込む」P20, 21</p> <p>「造形的な視点」</p> <ul style="list-style-type: none"> 材料のどのような特徴を、どのように生かしているだろうか。 <p>「作者の言葉（作家、生徒作品）」</p> <ul style="list-style-type: none"> 地球から遠く離れた何処かの惑星に「こんな生き物がいるかもしれない…」と想像しながらつくりました。（作家） 一度役割を終えたものを繋ぎ合わせ、生き物として生まれ変わらせています。全体の形と、細部の材料の面白さの両立が難しかったです。（作家） 一番工夫したところは、外骨格の部分です。空き缶を切って重ね、高さや中心がずれないように細かい部分まで注意しました。（生徒作品） <p>第2・3学年 上「空間に光を飾ろう ジジジカピカ ポッポッパツ」P36, 37</p> <p>「造形的な視点」</p>

<p>日文</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 光の印象は、ランプシェードのどのような工夫から生じるのだろうか。 <p>「光の違いを比べて感じよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然や人工の光は、「きらめく」「ぼかぼか」「仄明かり」などの言葉で表されるように、豊かな表情をみせます。また、照明に用いられる材料によって、光の感じはさまざまに変化します。 <p>「空間に影をつくろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 影にも着目し空間を飾りましょう。材料や光源の工夫によって変わる光や影の表情を楽しみましょう。 <p>「生徒作品・作者の言葉」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 光の通り方は、素材によって違うことがわかった。手で和紙をちぎり、くしゃくしゃにして温かみのあるあかりになったので、白い壁の家に飾ることが楽しみです。 ・ 部屋に置いた時、光の花があつたら癒やされると思いつくりました。色はそれほど塗らずにテラコッタそのものの色を生かしました。
-----------	--

【美術】

観 点	基礎・基本の定着
視 点	③形や色彩, 材料や用具の取扱い等の定着を図るための工夫
方 法	○形や色彩, 材料や用具の取扱い等に関する記載と具体例

発行者	調査・研究内容
開隆堂	<p>【形や色彩, 材料や用具の取扱い等に関する記載】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 巻末に「学びの資料」を設け, 形や色彩, 材料や用具の取扱い及び表現方法等に関する資料を幅広く掲載している。 ○ 形や色彩, 材料や用具の取扱い等に関する動画のQRコードとともに, 動画の掲載をマークで示している。 <p>【具体例】</p> <p>第1学年「学びの資料」P52～67</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 鉛筆で表す (動画: さまざまな描き方, 身近なものを描く) ・ 構図をとらえる ・ 絵の具で表す (動画: パレットと筆洗の使い方, さまざまな技法で表す) ・ 文字を活用する ・ 紙や木を切る・削る (動画: カッターナイフ, 小刀, のこぎり, 彫刻刀, 電動糸のこぎり) ・ 焼き物の成形 (動画: 成形のしかた) ・ 作品を展示する ・ 色を学ぶ, 色を知る ・ 美術館を楽しむ <p>第2・3学年「学びの資料」P106～122</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 奥行き表現 ・ 版画の種類 ・ 金属や石を加工する (動画: 針金でつくる, 金属板でつくる, 石彫をつくる, 印刻をつくる) ・ 染める・編む (動画: 藍染め, 紙バンドで編む) ・ 映像メディアを活用する ・ 漫画の試み ・ アニメーションの技法 (動画: コマ撮りアニメをつくろう) ・ 共に学ぶ美術 ・ 日本の伝統色と配色文化 ・ 美術の歴史と交流
光村	<p>【形や色彩, 材料や用具の取扱い等に関する記載】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 巻末に「学習を支える資料」を設け, 形や色彩, 材料や用具の取扱い及び表現方法等に関する資料を幅広く掲載している。 ○ 形や色彩, 材料や用具の取扱い等に関する動画の二次元コードとともに, 動画の内容を示している。

<p>光村</p>	<p>【具体例】 第1学年「学習を支える資料」P58～80</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どれで描く？どれで塗る？（動画：用具の使い方を動画で見よう。） ・ 描いてみよう（動画：鉛筆デッサンと着彩の流れを動画で見よう。） ・ さまざまな描き方（動画：さまざまな描き方を動画で見よう。） ・ 版画の楽しみ（動画：彫刻刀の使い方を動画で見よう。） ・ 文字をデザインする（動画：レタリングの手順を動画で見よう。） ・ 紙でつくる ・ 粘土でつくる（動画：焼き物の手順を動画で見よう。） ・ 木でつくる（動画：用具の使い方を動画で見よう。） ・ 形の世界を知ろう ・ 色や光の特徴を知ろう ・ 美術館を楽しもう ・ 美術鑑賞を楽しむ手がかり <p>第2・3学年「学習を支える資料」P76～103</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発想を広げる ・ 写真や映像を撮影する ・ 映像で広がる世界（動画：掲載作品を動画で鑑賞してみよう。） ・ 金属でつくる（動画：金属の加工方法を動画で見よう。） ・ 石でつくる（動画：石の加工方法を動画で見よう。） ・ 材料の可能性 ・ 色を組み合わせる ・ 日本の伝統色 ・ 海を越えた文化交流 ・ 美術史年表 ・ 日本の伝統工芸 ・ 日本の世界文化遺産 ・ 地域と美術とのつながり ・ 美術の力
<p>日文</p>	<p>【形や色彩，材料や用具の取扱い等に関する記載】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 巻末に「学びを支える資料」を設け，鑑賞用の資料とともに，形や色彩，材料や用具の取扱い及び表現方法等に関する資料を幅広く掲載している。 ○ 形や色彩，材料や用具の取扱い等に関する動画の二次元QRコードを掲載している。 <p>【具体例】 第1学年「学びを支える資料」P58～75</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発想・構想の手立て ・ 鉛筆で描く ・ 水彩で描く ・ さまざまな技法で描く（動画） ・ 遠近感を表す

<p>日文</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文字の基本 ・ 木版画（動画） ・ コラグラフ ・ 材料を知ろう ・ 木工の技法（動画） ・ 焼き物をつくる（動画） ・ 自然界や身の回りにある形や色彩 ・ 色彩の基本・仕組み ・ 日常の中の美術 ・ 美術館へ行こう <p>第2・3学年 上「学びを支える資料」P50～65</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 岡本太郎“芸術はみんなのもの” ・ 暮らしに息づくパブリックアート ・ 北斎の大波 ・ 水墨画の表現 ・ 写真で表現する ・ 立体を描く ・ 人物をつくる ・ 木でつくる ・ 金属でつくる ・ 絵巻物の世界（動画） ・ 日本美術と世界の美術の歩み ・ 色彩の特徴を深く知る ・ 日本の伝統色 <p>第2・3学年 下「学びを支える資料」P48～57</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 火焰型土器（原寸大） ・ さまざまなアートに触れよう ・ 日本の世界文化遺産 ・ 受け継ぐ伝統と文化 ・ 仏像の種類 ・ 美術文化の継承 ・ トリックアート ・ デペイズマン ・ 石を彫る ・ 布を染める ・ 動画をつくる
-----------	---

【美術】

観 点	主体的に学習に取り組む工夫
視 点	④興味・関心を高めるための工夫
方 法	○表現及び鑑賞への興味・関心を高めるための工夫と具体例

発行者	調査・研究内容																								
開隆堂	<p>【表現及び鑑賞への興味・関心を高めるための工夫と具体例】</p> <p>「鑑賞」</p> <p>第1学年</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>具体例</th> <th>興味・関心を高めるための工夫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>「表紙」 「発見と創造」 P 2, 3 ・ 高村光太郎</td> <td>・ 作品に解説をつけるとともに、作者の詩を提示している。</td> </tr> <tr> <td>「学びの地図」 P 6, 7</td> <td>・ 「表現」 「鑑賞」 「自分の思いを表現する美術」 「他者や社会を考える美術」に分けて学習の目標を提示している。</td> </tr> <tr> <td>「絵や彫刻で学ぶこと」 P 8, 9 ・ 草間彌生</td> <td>・ 制作風景に1頁を使い、作者に興味を持たせている。</td> </tr> <tr> <td>「伊藤若冲の世界」 P 24～29 ・ 「樹花鳥獣図屏風」</td> <td>・ 作品全体を折り曲げの大型図版とその一部を原寸大で2点掲載している。 ・ 「美術の用語」を掲載している。</td> </tr> <tr> <td>「デザインや工芸で学ぶこと」 P 32, 33</td> <td>・ 「学習の流れ」を文で示している。</td> </tr> <tr> <td>「あったらいいなを形に」 P 34, 35 ・ 佐藤オオキ</td> <td>・ 作家がインタビューでデザインについて語るとともに、アイデアスケッチを掲載している。</td> </tr> </tbody> </table> <p>○ 作品全体を折り曲げの大型図版で掲載し、作品全体を拡大したり、一部を原寸大の図版で示したりしている。</p> <p>第2・3学年</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>具体例</th> <th>興味・関心を高めるための工夫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>「表紙」 「探求と継承」 P 2～4 ・ 名古屋城</td> <td>・ 写真や実測図、復元模写の様子を掲載している。</td> </tr> <tr> <td>「絵や彫刻で学ぶこと」 P 8, 9 ・ パブロ・ピカソ</td> <td>・ 光で描く作者の写真を1頁と代表作を5点掲載している。</td> </tr> <tr> <td>「ゴッホと自画像」 P 18, 19 ・ フィンセント・ファン・ゴッホ</td> <td>・ 自画像9点とそのうちの1点の一部分を原寸で掲載している。 ・ 作品の解説を掲載している。</td> </tr> <tr> <td>「鑑賞で学ぶこと」 P 36, 37 ・ 「記憶の固執」</td> <td>・ 2頁にわたり原寸大の作品を掲載している。</td> </tr> </tbody> </table>	具体例	興味・関心を高めるための工夫	「表紙」 「発見と創造」 P 2, 3 ・ 高村光太郎	・ 作品に解説をつけるとともに、作者の詩を提示している。	「学びの地図」 P 6, 7	・ 「表現」 「鑑賞」 「自分の思いを表現する美術」 「他者や社会を考える美術」に分けて学習の目標を提示している。	「絵や彫刻で学ぶこと」 P 8, 9 ・ 草間彌生	・ 制作風景に1頁を使い、作者に興味を持たせている。	「伊藤若冲の世界」 P 24～29 ・ 「樹花鳥獣図屏風」	・ 作品全体を折り曲げの大型図版とその一部を原寸大で2点掲載している。 ・ 「美術の用語」を掲載している。	「デザインや工芸で学ぶこと」 P 32, 33	・ 「学習の流れ」を文で示している。	「あったらいいなを形に」 P 34, 35 ・ 佐藤オオキ	・ 作家がインタビューでデザインについて語るとともに、アイデアスケッチを掲載している。	具体例	興味・関心を高めるための工夫	「表紙」 「探求と継承」 P 2～4 ・ 名古屋城	・ 写真や実測図、復元模写の様子を掲載している。	「絵や彫刻で学ぶこと」 P 8, 9 ・ パブロ・ピカソ	・ 光で描く作者の写真を1頁と代表作を5点掲載している。	「ゴッホと自画像」 P 18, 19 ・ フィンセント・ファン・ゴッホ	・ 自画像9点とそのうちの1点の一部分を原寸で掲載している。 ・ 作品の解説を掲載している。	「鑑賞で学ぶこと」 P 36, 37 ・ 「記憶の固執」	・ 2頁にわたり原寸大の作品を掲載している。
	具体例	興味・関心を高めるための工夫																							
	「表紙」 「発見と創造」 P 2, 3 ・ 高村光太郎	・ 作品に解説をつけるとともに、作者の詩を提示している。																							
	「学びの地図」 P 6, 7	・ 「表現」 「鑑賞」 「自分の思いを表現する美術」 「他者や社会を考える美術」に分けて学習の目標を提示している。																							
	「絵や彫刻で学ぶこと」 P 8, 9 ・ 草間彌生	・ 制作風景に1頁を使い、作者に興味を持たせている。																							
	「伊藤若冲の世界」 P 24～29 ・ 「樹花鳥獣図屏風」	・ 作品全体を折り曲げの大型図版とその一部を原寸大で2点掲載している。 ・ 「美術の用語」を掲載している。																							
	「デザインや工芸で学ぶこと」 P 32, 33	・ 「学習の流れ」を文で示している。																							
	「あったらいいなを形に」 P 34, 35 ・ 佐藤オオキ	・ 作家がインタビューでデザインについて語るとともに、アイデアスケッチを掲載している。																							
	具体例	興味・関心を高めるための工夫																							
	「表紙」 「探求と継承」 P 2～4 ・ 名古屋城	・ 写真や実測図、復元模写の様子を掲載している。																							
	「絵や彫刻で学ぶこと」 P 8, 9 ・ パブロ・ピカソ	・ 光で描く作者の写真を1頁と代表作を5点掲載している。																							
	「ゴッホと自画像」 P 18, 19 ・ フィンセント・ファン・ゴッホ	・ 自画像9点とそのうちの1点の一部分を原寸で掲載している。 ・ 作品の解説を掲載している。																							
	「鑑賞で学ぶこと」 P 36, 37 ・ 「記憶の固執」	・ 2頁にわたり原寸大の作品を掲載している。																							

開隆堂	<p>「物語を伝える絵巻物の世界」 P 38～40</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「鳥獣人物戯画 甲巻」 ・ 「伴大納言絵巻 上巻」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2頁または3頁にわたり掲載し、右頁から左頁に見るようにしている。
	<p>「金の表現、墨の表現」 P 41～44</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「紅梅図襖」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4頁にわたり掲載している。
	<p>「琳派のデザイン性」 P 45～47</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「八橋蒔絵螺鈿硯箱」 ・ 「燕子花図屏風」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 硯箱内部の底を1頁の背景としている。 ・ 2頁にわたり、燕子花図屏風を掲載している。
	<p>「浮世絵、庶民の楽しみ」 P 48, 49</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 拡大作品の上に作品を重ねて掲載している。
	<p>「美術がつなぐ世界と日本」 P 50, 51</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「ノクターン：青と金色ーオールド・バタシー・ブリッジ」 ・ 「初音ミク」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本の美術文化に影響を受けた西洋の作品を掲載している。 ・ 世界に広がる日本文化を写真やイラストで掲載している。
	<p>「造形表現のパワー」 P 52, 53</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 岡本太郎 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作者の言葉を掲載している。
	<p>「祈りの造形、仏像の美」 P 54, 55</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「千手観音菩薩立像」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時代や種類が違う仏像を解体修理の写真とともに掲載している。
	<p>「ルネサンス、人間の発見」 P 56, 57</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「最後の晚餐」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ テンペラとモザイクの比較や構図と技法などの解説がある。
	<p>「主題を決めるロマン主義」 P 58, 59</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「種をまく人」 ・ 「畏にかかった狐」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「主題の展開」で、その時代に起きた美術の変化を作品とともに掲載している。
	<p>「光をとらえる印象派」 P 60, 61</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「ルーアン大聖堂」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ モネが光の変化に着目したルーアン大聖堂の作品を3点掲載している。
	<p>「デザインや工芸で学ぶこと」 P 62, 63</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「SDGs ロゴ」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ SDGsの達成すべき世界的な目標とデザインをつなげ、話し合う設定にしている。
	<p>「生活に生きる伝統工芸」 P 88, 89</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「漆の箸と匙」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漆塗りの箸や匙を複数並べた写真を掲載している。
	<p>「伝統と創造」 P 90, 91</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「色絵薄墨墨はじき雪文鉢」 ・ 「色絵宝尽くし文八角皿」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統的な工芸品と現代的にデザインされた作品を掲載している。
<p>「ゲルニカで伝えたかったこと」 P 94, 95</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「ゲルニカ」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ デッサンが4点と作者の言葉を掲載している。 	

	「美術で世界と向き合う」 P 96～101 ・ 「誕生」 ・ 「ボウルを持つデーモン」	・ 2人の作家の作品を、それぞれ2頁にわたり左右に配置して掲載している。								
	「リノベーション, 使い続ける工夫」 P 102, 103 ・ 「銭湯をリノベーションしたカフェ」	・ 身近な建物の再利用を通して、環境や社会問題に関心をもたせる。								
	「私たちの社会と美術」 P 104, 105 ・ 「向き合って」	・ 「対立を乗り越える」で写真と表現意図を具体的に掲載している。								
	「未来に向かって」 P 123 ・ 「あたらしい朝の舟」	・ 3年間の学習をまとめた文章を掲載している。								
開隆堂	○ 作品全体を見開きや折り曲げの大型図版で掲載し、作品の一部や全体を拡大して示している。									
	「表現」 第1学年「スケッチ」の題材について									
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>具体例</th> <th>興味・関心を高めるための工夫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>「見ることからの発見」 P 10, 11 ・ 身のまわりのスケッチ4点 ・ 「ほたるぶくろ」 ・ 「素描・エビ」 ・ 「エビと魚」</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分が使っている身近なものを観察する。 ・ 対象の面白さを見ている写真, 質感を感じながら描いている写真を掲載している。 ・ 作者の言葉を掲載している。 ・ 熊谷守一の作品が庭に寝そべる写真と作者の言葉とともに掲載している。 ・ 田中一村の素描と絹本着色の作品を表現意図とともに掲載している。 ・ 「形や色彩, 質感などをよく観察すること」と視点を示している。 </td> </tr> </tbody> </table>	具体例	興味・関心を高めるための工夫	「見ることからの発見」 P 10, 11 ・ 身のまわりのスケッチ4点 ・ 「ほたるぶくろ」 ・ 「素描・エビ」 ・ 「エビと魚」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分が使っている身近なものを観察する。 ・ 対象の面白さを見ている写真, 質感を感じながら描いている写真を掲載している。 ・ 作者の言葉を掲載している。 ・ 熊谷守一の作品が庭に寝そべる写真と作者の言葉とともに掲載している。 ・ 田中一村の素描と絹本着色の作品を表現意図とともに掲載している。 ・ 「形や色彩, 質感などをよく観察すること」と視点を示している。 					
具体例	興味・関心を高めるための工夫									
「見ることからの発見」 P 10, 11 ・ 身のまわりのスケッチ4点 ・ 「ほたるぶくろ」 ・ 「素描・エビ」 ・ 「エビと魚」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分が使っている身近なものを観察する。 ・ 対象の面白さを見ている写真, 質感を感じながら描いている写真を掲載している。 ・ 作者の言葉を掲載している。 ・ 熊谷守一の作品が庭に寝そべる写真と作者の言葉とともに掲載している。 ・ 田中一村の素描と絹本着色の作品を表現意図とともに掲載している。 ・ 「形や色彩, 質感などをよく観察すること」と視点を示している。 									
	○ 作家や生徒の作品を掲載するとともに、生徒の活動の様子を写真で示すことによって、興味・関心を高めている。									
光村	【表現及び鑑賞への興味・関心を高めるための工夫と具体例】									
	「鑑賞」 第1学年									
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>具体例</th> <th>興味・関心を高めるための工夫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>「表紙」 ・ 「夢」</td> <td>・ 作品に描かれている様々なものに気づくよう、作品の一部を拡大している。</td> </tr> <tr> <td>「美術って何だろう？」 P 6, 7 ・ 「歩く男 I」</td> <td>・ 「美術作品って、どう見ればいいんだろう？」で、自由に見ること、友達の意見を聞くこと等を示している。</td> </tr> <tr> <td>「版であらわす美しさ」 P 18, 19 ・ 「星空をペガサスと牛が飛んでいく」</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ シルクスクリーンの色彩の効果と木版画の彫りの効果を対比している。 ・ 鳥の子紙に養護学級の生徒作品を1頁掲載している。 </td> </tr> </tbody> </table>	具体例	興味・関心を高めるための工夫	「表紙」 ・ 「夢」	・ 作品に描かれている様々なものに気づくよう、作品の一部を拡大している。	「美術って何だろう？」 P 6, 7 ・ 「歩く男 I」	・ 「美術作品って、どう見ればいいんだろう？」で、自由に見ること、友達の意見を聞くこと等を示している。	「版であらわす美しさ」 P 18, 19 ・ 「星空をペガサスと牛が飛んでいく」	<ul style="list-style-type: none"> ・ シルクスクリーンの色彩の効果と木版画の彫りの効果を対比している。 ・ 鳥の子紙に養護学級の生徒作品を1頁掲載している。 	
	具体例	興味・関心を高めるための工夫								
「表紙」 ・ 「夢」	・ 作品に描かれている様々なものに気づくよう、作品の一部を拡大している。									
「美術って何だろう？」 P 6, 7 ・ 「歩く男 I」	・ 「美術作品って、どう見ればいいんだろう？」で、自由に見ること、友達の意見を聞くこと等を示している。									
「版であらわす美しさ」 P 18, 19 ・ 「星空をペガサスと牛が飛んでいく」	<ul style="list-style-type: none"> ・ シルクスクリーンの色彩の効果と木版画の彫りの効果を対比している。 ・ 鳥の子紙に養護学級の生徒作品を1頁掲載している。 									

<p>「絵から物語をつむぐ」P20, 21</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「眠るジプシー女」 ・ 「クリスティーナの世界」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 絵から物語を想像する作品を掲載している。
<p>「風神雷神—受け継がれる日本の美」P30～37</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「風神・雷神像」 ・ 「風神雷神図屏風」 ・ 「燕子花図屏風」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作品全体を見開きや折り曲げの拡大図で掲載し、彫刻作品と屏風絵作品を比較できるように示している。 ・ 「屏風を鑑賞する」を掲載することで、屏風の魅力を示している。 ・ 「国語科とのつながり」を掲載している。
<p>「デザインって何だろう？」P38, 39</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一日の生活の中のデザインをイメージできる。
<p>「世界の仮面と出会う」P56, 57</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ さまざまな国の仮面10点 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 色や形が異なる世界のさまざまな仮面を掲載している。 ・ QRコードで「バリの魔女」と「秋田県男鹿市のナマハゲ」が衣装とともに鑑賞できる。
<p>「美術鑑賞を楽しむ手がかり」P80, 81</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「地理学者」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「国語科とのつながり」について、美術鑑賞を広げる言葉を並べて、自分の感じ方にぴったりくる言葉を複数提示している。

- 和紙のような風合いのある紙に印刷し、実際の作品の仕上がりに近付けている。
- 作品全体を見開きや折り曲げの大型図版で掲載し、彫刻作品と屏風絵作品を比較できるように示している。

光村

第2・3学年

具体例	興味・関心を高めるための工夫
<p>「表紙」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「虎図襖」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 墨一色で、大胆に描いた作品を掲載している。
<p>「うつくしい！」P2～4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「阿修羅像」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 折り曲げの頁で立像と顔3面を掲載している。
<p>「レオナルドとその時代」P10～15</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「最後の晚餐」 ・ 「春（ラ・プリマヴェーラ）」 ・ 「ピエタ」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ トレーシングペーパーを活用して消失点を探すために線を引くなどができる。 ・ 鑑賞の視点を「手のポーズ」と示している。 ・ 作者について、レオナルドの作品よりも前に描かれた「最後の晚餐」とルネサンスについて掲載している。
<p>「北斎からゴッホへ」P24～31</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」 ・ 「星月夜」 ・ ゴッホ自画像4点 ・ 「睡蓮」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 折り曲げの2頁で、「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」と「星月夜」を掲載している。 ・ ゴッホの自画像4点と、星月夜を比較して鑑賞できる。 ・ 「ジャポニズム」「印象派」へとつなげる頁があり、「ジャポニズム」では、題材、ポーズ、構図を掲載し、「印象派」では、モネの「睡蓮」を掲載している。

<p>「絵巻物と漫画の表現」 P 36～39</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「鳥獣人物戯画 甲巻」 ・ 「火の鳥」(ヤマト編より) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 左頁に「鳥獣人物戯画 甲巻」を3段に、右頁に原寸大の図版を掲載している。 ・ 絵巻物と漫画の比較や漫画表現の工夫を掲載している。
<p>「ゲルニカ, 明日への願い」 P 48～P 55</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「『ゲルニカ』を見る少年」 ・ 「ゲルニカ」 ・ 「『ゲルニカ』の下絵」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 折り曲げの頁で「『ゲルニカ』を見る少年」の写真を掲載し、それを開くと4頁にわたって「ゲルニカ」を掲載している。 ・ 作品とそれを見ている少年の写真を掲載することで、作品の大きさを実感できる。 ・ ゲルニカの写真とスケッチとともにピカソの作品を5点掲載し、背景や作者についての説明がある。
<p>「うつくしい!」 P 2～4, P 104, 105</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「うつくしい!」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身の回りの美しさに気づき、自分の手で美しいものをつくる楽しみや喜びを感じてほしいという思いから、冒頭と最後に「うつくしい!」という文章を掲げている。

○ 作品全体を見開きや折り曲げの大型図版で掲載し、作品の一部や全体を拡大したり、原寸大の図版で示したりしている。

○ 一点透視図法などの作者の表現の工夫を、トレーシングペーパーに書き込むことで、実感を伴って理解できるようにしている。

光村

○ 作品とそれを見ている少年の写真を掲載することで、作品の大きさを実感できるようにしている。

「表現」

第1学年「スケッチ」の題材について

具体例	興味・関心を高めるための工夫
<p>「見つめ, 感じ取り, 描く」 P 10～13</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「身の回りのもののスケッチ」 ・ 生徒作品2点 ・ 「つつじ」 ・ 「桃といちじく」 ・ 「二つの置時計」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近なものを描いた作品を掲載している。 ・ 「触った感覚を描く」「思い出を重ねて描く」「美しいと思ったものを描く」「愛着のあるものを描く」を例にし、モチーフの選び方を提示している。 ・ 2点の生徒作品を4枚の写真とともに制作過程を掲載し、QRコードで生徒作品を鑑賞することができる。 ・ 作家作品は、紙に鉛筆、色鉛筆、水彩と生徒と同じ画材である。 ・ QRコードで画材の違う動画を見ることができる。

○ 作家や生徒の作品を掲載するとともに、生徒の様子を学習活動の過程に分けて写真で示す等により、興味・関心を高めている。

【表現及び鑑賞への興味・関心を高めるための工夫と具体例】

「鑑賞」

第1学年

具体例	興味・関心を高めるための工夫
「表紙」 ・ 「真珠の耳飾りの少女」	・ 作品の見方や感じ方を広げる鑑賞ができるように、原寸大の作品を掲載している。
「美術との出会い アニメーションの背景画から風景を見つめ直して」P2～5 ・ 「となりのトトロ」 ・ 松任谷由美	・ 「となりのトトロ」の背景画と松任谷由美の言葉を掲載し、美術との出会いの大切さを共有する頁を設定している。
「鑑賞との出会い 見方や感じ方を広げよう」P26, 27	・ 「作品」「生活の中の形や色彩」「美術文化や伝統」の3つの観点から説明している。
「原始の表現に出会う 美のタイムトラベル」P28, 29 ・ 「遮光器土偶」	・ 「遮光器土偶」の原寸大の写真を掲載し、土偶の模様を視点に「話し合ってみましょう」と示している。
「探して、感じて、語り合っ て 絵の中をよく見ると」P30, 31 ・ 「通行止め(交通渋滞)」	・ 描かれている人や情景、構図や色彩、作者の意図と工夫について考えることができる作品を掲載している。
「折り曲げて味わう 屏風、美のしかけ」P32～37 ・ 「風神雷神図屏風」 ・ 「燕子花図(右隻)」	・ 折り曲げ頁の左右に、「風神雷神図屏風」の左隻、右隻を掲載し、それらを開くと、「燕子花図」の右隻を4頁にわたり掲載している。 ・ 「燕子花図」は、実際に折って、奥行きなどの見え方の違いを確認できる。
「デザインや工芸との出会い 人の暮らしを豊かに」P38, 39	・ 「デザインや工芸」を、「飾る」「伝える」「使う」の3つの観点から説明している。

○ 作品全体を見開きや折り曲げの大型図版で掲載し、作品の一部や全体を拡大したり、一部を原寸大で示したりしている。

第2・3学年 上

具体例	興味・関心を高めるための工夫
「表紙」 ・ 「緑響く」	・ QRコードを掲載し、「緑響く」の解説が鑑賞できる。
「学びの美感と広がり 多彩な表現に挑むのはなぜだろう」P2～5 ・ 「星月夜」 ・ 「印象一日の出」 ・ 岡本太郎	・ 折り曲げの3頁を使い作品の一部を原寸大で掲載するとともに「キャンヴァスに残る筆あとから、描いている姿を思い浮かべてみましょう。」と原寸大を生かした記述がある。 ・ 「学びの言葉」で岡本太郎の言葉を掲載し、美術の学びを共有する頁を設けている。

日文

日文	<p>「感じて、考えて、楽しむ なんてこれが美術なの？」 P 22, 23</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「スイミング・プール」 ・ 「The weather project」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ QRコードで「スイミング・プール」の画像と「The weather project」の動画を見ることができる。
	<p>「構図や技法に着目する 浮世絵はすごい」 P 24～29</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「名所江戸百景 大はしあたけの夕立」 ・ 「玉や玉や」 ・ 「三世大谷鬼次の奴江戸兵衛」 ・ 「当時三美人 富本豊ひな 難波屋きた 高しまひさ」 ・ 「神奈川冲浪裏」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 折り曲げ頁の右に「名所江戸百景 大はしあたけの夕立」と「玉や玉や」の作品とともに、下方に作品解説や浮世絵の制作工程を掲載している。 ・ 「神奈川冲浪裏」の原寸大を掲載している。
	<p>「ジャポニズムを通して考える 文化の出会いがもたらしたもの」 P 30, 31</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「ラ・ジャポネーズ」 ・ 「日本趣味・雨の大橋（大はしあたけの夕立）」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「西洋の芸術家たちが日本美術の特色や美しさをどのように取り入れているか、考えてみましょう。」と投げかけ、それぞれの作品について説明している。
	<p>「伝統工芸の技と心を知る 手から手へ受け継ぐ」 P 32, 33</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 八重樫亮 ・ 志村ふくみ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統工芸の2つの作品とともに、作者の言葉や制作風景を紹介している。
	<p>「美術の力で課題を解決する デザインで人生を豊かに」 P 46, 47</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「Qドラム」 ・ 「競技用チェアスキー」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人々の暮らしをよりよくするデザインや障害を持つ人が使う用具のデザイン等を掲載している。
	<p>「心地よい空間を考える 憩いを生み出す場所」 P 48, 49</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「天理駅前広場コフフン」 ・ 「グエル公園」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国内外の4例を掲載している ・ QRコードで「天理駅前広場コフフン」の動画を鑑賞できる。
	<p>「岡本太郎 “芸術はみんなのもの”」 P 50, 51</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「太陽の塔」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 青を背景とし、多岐にわたる作品を掲載している。
	<p>「暮らしに息づくパブリックアート」 P 52, 53</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 10点の国内の作品を写真で掲載している。
	<p>「北斎の大波」 P 54</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 葛飾北斎 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「神奈川冲浪裏」の制作過程とその他の波の作品を掲載している。
	<p>「絵巻物の世界」 P 58, 59</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「鳥獣人物戯画」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 下半分2頁2段で掲載。上半分には、絵巻物の見方や驚きの表現について説明している。 ・ QRコードで絵巻物の扱い方を見ることができる。

○ 作品全体を見開きや折り曲げの大型図版で掲載し、作品の一部や全体を拡大したり、原寸大で示したりしている。

第2・3学年 下	
具体例	興味・関心を高めるための工夫
「表紙」 ・ 「オキュラス」	・ アメリカ同時多発テロ（2001）によって崩壊したビルの跡地近くにつくられた建造物を掲載している。
「学びの探求と未来 時代を超えて美を探求する思い」P2～5 ・ アントニ・ガウディ	・ ガウディに関わる外尾悦郎と井浦新の「学びの言葉」を紹介している。
「人間をよく見てみる ルネサンスが目指したもの」P22, 23 ・ 「モナ・リザ」	・ 「違いに着目しよう」で、同じ題材の「ルネサンス以前の絵画」と「ルネサンス期」を比較している。
「美術の力を考える あの目を忘れない」P24～29 ・ 「誕生」 ・ 「ゲルニカ」 ・ 「『ゲルニカ』のための習作」	・ 折り曲げ頁の「誕生」とその原寸大が掲載している ・ 折り曲げ頁を開くと3頁にわたる「ゲルニカ」とともに、「『ゲルニカ』のための習作」とピカソの紹介がある。 ・ 「ゲルニカ」の横に作者の言葉と作品の大きさを感じさせるための人物シルエットがある。
「祈りの造形を感じ取る 仏像に宿る心」P30, 31	・ 「手」に着目し比較している。
「美術文化の継承を考える どこまで修復すべきか」P32, 33 ・ 「最後の晩餐」	・ どこまで修理すればよいか話し合うことで、美術文化の継承と創造について考える題材としている。
「地域文化を生かす 笑顔が生まれる鉄道デザイン」P46, 47	・ 鉄道をデザインしたデザイナーの言葉とともに、デザインを乗り物まで広げて紹介している。
「火焰型土器」P48, 49 ・ 「火焰型土器」	・ 迫力を味わうことができるように、見開きで原寸大の「火焰型土器」を掲載している。
「さまざまなアートに触れよう」P50, 51	・ 大きな空間を生かした作品、共同作品、作品に触れる美術館等、アートを体験できる機会や場所を紹介している。
「日本の世界文化遺産」P52 ・ 「中尊寺金色堂」	・ 代表的な世界文化遺産を日本地図と写真で紹介している。
「仏像の種類」P54 ・ 「阿修羅像（復元）」	・ 阿修羅像の復元について掲載している。
「デペイズマン」P55 ・ 「秘密の遊戯者」	・ 表現意図とともに4つのデペイズマンを紹介している。
「あなたへ 明日への巣立ち」P60, 61 ・ わたらせ溪谷鐵道／上神梅～本宿	・ 写真と美術科学習のまとめの言葉を掲載している。

○ 作品全体を見開きや折り曲げの大型図版で掲載し、作品の一部や全体を拡大したり、一部を原寸大で示したりしている。

日文

○ 作品に女子中学生の平均身長シルエット像を並べて示すことで、作品の大きさを実感できるようにしている。

「表現」

第1学年「スケッチ」の題材について

日文

具体例	興味・関心を高めるための工夫
<p>「感じ取ったことをスケッチに見つめると見えてくるもの」P12, 13</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「消しごむ」 ・ 好きな思い出を描く「良いね！ノート」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 質感の違う身近なモチーフを扱っている。 ・ 葉っぱの半分を紙で隠すことで、葉っぱの持つ特徴を感じ取らせている。 ・ 「本物そっくりに描いて驚かせよう」と見出しをつけ、生徒が掲載作品を実際に描いている写真を掲載している。 ・ アクリル、色鉛筆、鉛筆を使用している。 ・ 形や色彩、明暗、質感などに着目することを示している。

○ 作家や生徒の作品を掲載するとともに、生徒の活動の様子を写真で示すことによって、興味・関心を高めている。

【美術】

観 点	主体的に学習に取り組む工夫
視 点	⑤表現と鑑賞の関連を図った学習活動
方 法	○表現と鑑賞の関連を図った学習活動の示し方と具体例

発行者	調査・研究内容
開隆堂	<p>【表現と鑑賞の関連を図った学習活動の示し方と具体例】</p> <p>○ 作家の作品や生徒作品とともに、作者の言葉を掲載することで、様々な表現意図や表現の工夫を知り、それらを活用した表現活動が展開できるようにしている。</p> <p>【具体例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第1学年 「よみがえる材料」 P 20, 21 ・ 第2・3学年 「自分と向き合う」 P 14～17 「想像の世界を表す」 P 20, 21
光村	<p>【表現と鑑賞の関連を図った学習活動の示し方と具体例】</p> <p>○ 作家の作品や生徒作品とともに、作者の言葉を掲載することで、様々な表現意図や表現の工夫を知り、それらを活用した表現活動が展開できるようにしている。</p> <p>○ 一つの題材の中で、表現と鑑賞の活動を表すアイコンを示し、相互に関連した学習の流れを示している。</p> <p>【具体例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第1学年 「材料に命を吹き込む」 P 28, 29 ・ 第2・3学年 「空想の世界へようこそ」 P 16, 17 「今の自分、これからの自分」 P 44～47
日文	<p>【表現と鑑賞の関連を図った学習活動の示し方と具体例】</p> <p>○ 作家の作品や生徒作品とともに、作者の言葉を掲載することで、様々な表現意図や表現の工夫を知り、それらを活用した表現活動が展開できるようにしている。</p> <p>○ 一つの題材の中に、表現と鑑賞の活動を表すマークを重なり合うように掲載し、相互の学習の関連を示している。</p> <p>【具体例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第1学年 「じっくり見て、感じながらつくる 材料に命を吹き込む」 P 20, 21 ・ 第2・3学年 上 「印象や感情を表す 心のイメージを形に」 P 16, 17 ・ 第2・3学年 下 「自分に向き合って表す 今を生きる私へ」 P 8～11

【美術】

観 点	主体的に学習に取り組む工夫
視 点	⑥生活や社会の中の美術の働きを実感するための工夫
方 法	○生活や社会の中の美術の働きを示す具体例

発行者	調査・研究内容
開隆堂	<p>【生活や社会の中の美術の働きを示す具体例】</p> <p>第1学年</p> <p>○ 多くの題材に、生活や社会と美術との関連について考えるきっかけとなる写真を掲載している。</p> <p>○ デザインや工芸等の題材のはじめに「デザインや工芸で学ぶこと」の特設ページを設け、生活の中の美術との関わりの例を具体的に示している。</p> <p>【具体例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「デザインや工芸で学ぶこと」P 32, 33 ・ 「あったらいいなを形に」P 34, 35 (デザイナーへのインタビュー) ・ 「機能と美しさの調和」P 42, 43 (「はさみ」を例にして、身の回りにあるデザインの働きについて紹介) ・ 「祭りの造形」P 50, 51 (伝統を生かしたデザインや職人の技についての紹介) <p>第2・3学年</p> <p>○ 多くの題材に、生活や社会と美術との関連について考えるきっかけとなる写真を掲載している。</p> <p>○ 3年間の学習のまとめとして、「美術の力を生かして社会とかかわる」の特設ページを設け、社会における美術の役割や社会への広がりについて示している。</p> <p>【具体例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「暮らしに生きる美術」P 6, 7 (美術で学んだ力を生かして社会で活躍している人の言葉を紹介) ・ 「安心と安全のデザイン」P 76, 77 (デザインによって安心や安全、防災や環境などについて考え、生活の中でデザインを生かす) ・ 「美術の力を生かして社会とかかわる」P 92, 93
光村	<p>【生活や社会の中の美術の働きを示す具体例】</p> <p>第1学年</p> <p>○ 多くの題材に、生活や社会と美術との関連について考えるきっかけとなる写真を掲載している。</p> <p>○ デザインや工芸等の題材のはじめに「デザインってなんだろう？」の特設ページを設け、一日の流れに沿った生活の中の美術との関わりを具体的に示している。</p> <p>【具体例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「デザインってなんだろう？」P 38, 39 ・ 「気持ちを伝えるデザイン」P 48, 49 (受け取る人がうれしくなるような工夫)

<p>光村</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「形や材料を比べてみよう」 P 50, 51 (さまざまなカップを鑑賞) <p>第2・3学年</p> <p>○ 多くの題材に、生活や社会と美術との関連について考えるきっかけとなる写真を掲載している。</p> <p>【具体例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「みんなのためのデザイン」 P 62, 63 (身近な日用品や公共施設) ・ 「地域の魅力を伝える」 P 70～73 (お土産のパッケージや地域のキャラクター) ・ 「心安らぐ場をつくる」 P 74, 75 (自然災害の後、復興に向けて地域の人々のためにつくられた建築物)
<p>日文</p>	<p>【生活や社会の中の美術の働きを示す具体例】</p> <p>第1学年</p> <p>○ 多くの題材に、生活や社会と美術との関連について考えるきっかけとなる写真を掲載している。</p> <p>○ デザインや工芸等の題材のはじめに「デザインや工芸との出会い 人の暮らしを豊かに」の特設ページを設け、生活の中の美術との関わりの例を具体的に示している。</p> <p>【具体例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「デザインや工芸との出会い 人々の暮らしを豊かに」 P 38, 39 ・ 「情報を整理して伝える わくわくコミュニケーション」 P 48, 49 (使い手とのよりよいコミュニケーションを考えて表現する設定) ・ 「暮らしを豊かにする形を考える 自然の美しさから生まれた」 P 54, 55 (自然界の美しさを生かした造形) <p>第2・3学年 上下</p> <p>○ 多くの題材に、生活や社会と美術との関連について考えるきっかけとなる写真を掲載している。</p> <p>○ 下の巻末に「社会に生きる美術の力」の特設ページを設け、異なる分野で活躍する3名の言葉を紹介し、美術の学びと生活や社会とのつながりについて示している。</p> <p>【具体例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「美術の力で課題を解決する デザインで人生を豊かに」上 P 46, 47 (人々の暮らしをよりよくするデザインの活動や役割) ・ 「地域文化を生かす 笑顔が生まれる鉄道デザイン」下 P 46, 47 (鉄道デザイン) ・ 「社会に生きる美術の力」下 P 58, 59

【美術】

観 点	内容の構成・配列・分量
視 点	⑦題材の配列
方 法	○題材数, 構成や配列

発行者	調査・研究内容																		
開隆堂	<p>【各項目の題材数】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">学年</th> <th rowspan="2">題材数 合計</th> <th colspan="3">分野別の題材数</th> </tr> <tr> <th>絵や彫刻など</th> <th>デザインや 工芸など</th> <th>鑑賞 まとめ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>17</td> <td>8 (2)</td> <td>9 (3)</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>2・3</td> <td>39</td> <td>11 (2)</td> <td>14 (2)</td> <td>14</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 「絵や彫刻など」と「デザインや工芸など」の項目の()は鑑賞中心の題材の数を示す。 ※ 2・3学年鑑賞の項目に「鑑賞」と「まとめ」の項目の題材含む。</p> <p>【構成や配列】 ○ 題材を「絵や彫刻など」「デザインや工芸など」「鑑賞」の3つの分野と「まとめ」「学びの資料」等に分けて配列している。題材を分野等に分けて配列している。</p> <p>第1学年 目次</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「発見と創造」 ・ 「図画工作から美術へ」 ・ 「学びの地図」 ・ 絵や彫刻など ・ デザインや工芸など ・ 学びの資料 <p>第2・3学年 目次</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「探求と継承」 ・ 「暮らしに生きる美術」 ・ 絵や彫刻など ・ 鑑賞 ・ デザインや工芸など ・ まとめ ・ 学びの資料 ・ 「未来に向かって」 	学年	題材数 合計	分野別の題材数			絵や彫刻など	デザインや 工芸など	鑑賞 まとめ	1	17	8 (2)	9 (3)	0	2・3	39	11 (2)	14 (2)	14
	学年			題材数 合計	分野別の題材数														
絵や彫刻など		デザインや 工芸など	鑑賞 まとめ																
1	17	8 (2)	9 (3)	0															
2・3	39	11 (2)	14 (2)	14															
光村	<p>【各項目の題材数】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">学年</th> <th rowspan="2">題材数 合計</th> <th colspan="3">分野別の題材数</th> </tr> <tr> <th>絵や彫刻など</th> <th>デザインや 工芸など</th> <th>鑑賞</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>17</td> <td>9 (3)</td> <td>8 (2)</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>2・3</td> <td>22</td> <td>14 (4)</td> <td>8 (2)</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 「絵や彫刻など」と「デザインや工芸など」の項目の()は鑑賞中心の題材の数を示す。</p>	学年	題材数 合計	分野別の題材数			絵や彫刻など	デザインや 工芸など	鑑賞	1	17	9 (3)	8 (2)	0	2・3	22	14 (4)	8 (2)	0
学年	題材数 合計			分野別の題材数															
		絵や彫刻など	デザインや 工芸など	鑑賞															
1	17	9 (3)	8 (2)	0															
2・3	22	14 (4)	8 (2)	0															

光村	<p>【構成や配列】</p> <p>○ 題材を「絵や彫刻など」「デザインや工芸など」の2つの分野と「学習を支える資料」等に分けて配列している。</p> <p>第1学年 目次</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ はじめに ・ 絵や彫刻など ・ デザインや工芸など ・ 学習を支える資料 <p>第2・3学年 目次</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ はじめに ・ 絵や彫刻など ・ デザインや工芸など ・ 学習を支える資料 ・ 「うつくしい！」 																							
日文	<p>【各項目の題材数】</p> <table border="1" data-bbox="359 795 1348 1041"> <thead> <tr> <th rowspan="2">学年</th> <th rowspan="2">題材数 合計</th> <th colspan="3">分野別の題材数</th> </tr> <tr> <th>絵や彫刻など</th> <th>デザインや 工芸など</th> <th>鑑賞</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>19</td> <td>10 (3)</td> <td>9 (2)</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>2・3上</td> <td>18</td> <td>9 (3)</td> <td>9 (3)</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>2・3下</td> <td>17</td> <td>10 (4)</td> <td>7 (1)</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 「絵や彫刻など」と「デザインや工芸など」の項目の()は鑑賞中心の題材の数を示す。</p> <p>【構成や配列】</p> <p>○ 題材を「絵や彫刻など」「デザインや工芸など」の2つの分野と「オリエンテーション」「学びを支える資料」に分けて配列している。</p> <p>全学年 目次</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オリエンテーション ・ 絵や彫刻など ・ デザインや工芸など ・ 学びを支える資料 	学年	題材数 合計	分野別の題材数			絵や彫刻など	デザインや 工芸など	鑑賞	1	19	10 (3)	9 (2)	0	2・3上	18	9 (3)	9 (3)	0	2・3下	17	10 (4)	7 (1)	0
学年	題材数 合計			分野別の題材数																				
		絵や彫刻など	デザインや 工芸など	鑑賞																				
1	19	10 (3)	9 (2)	0																				
2・3上	18	9 (3)	9 (3)	0																				
2・3下	17	10 (4)	7 (1)	0																				

【美術】

観 点	内容の表現・表記
視 点	⑧作品等についての示し方の工夫
方 法	○作品等や造形活動の示し方と具体例

発行者	調査・研究内容
開隆堂	<p>【作品等や造形活動の示し方と具体例】</p> <p>「絵や彫刻など」</p> <p>第1学年「心ひかれる風景」P12, 13</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 身近に接する風景の観察をよく行い、心ひかれた場所や空間を自分の視点で切り取り受けた印象を大切に表現することを示している。 ○ 生徒作品や作者の言葉及び表現意図を示している。 ○ 特定の時間や季節がつくり出す風景の美しさを示している。 <p>第2・3学年「風景が語るもの」P10～13</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 最初2ページにわたって画家の描いた風景画を鑑賞させ、色彩や筆使い、奥行きや広がりを表す視点や構図の工夫に着目させるようにしている。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「小堀進と水郷」「構図を考えよう」 ○ 生徒作品や作者の言葉及び表現意図を示している。 ○ 細かく描き込んだ生徒作品を多数掲載し、納得のいく表現方法の具体を示している。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「表現方法を工夫して主題を表そう」 <p>「デザインや工芸など」</p> <p>第1学年「ロゴマークで印象づける」P40, 41</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 社会の中で使われているロゴマークを幅広く取り上げ、表現意図とともに示している。 ○ 生徒作品や作者の言葉及び表現意図を示している。 ○ 学習の流れに沿って、活動ごとに写真等とコメントで示している。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「クラスのシンボルマークをデザインしよう」 ○ デザインと社会のつながりの例を示している。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「デザインの力で地域を変える～今治をデザインで活発に～」 <p>第2・3学年「ピクトグラムとサイン計画」P64, 65</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 駅や空港などの公共空間で使われている絵文字の例を取り上げ、視覚的な図による情報の伝え方を示している。 ○ 生徒作品や作者の言葉及び表現意図を示している。 ○ サイン計画を具体的に立てて、相手に伝わるピクトグラムの制作順序を示している。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「ピクトグラムができるまで」

<p>光村</p>	<p>【作品等や造形活動の示し方と具体例】 「絵や彫刻など」 第1学年「心ひかれるこの風景」P22～25</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 季節や時間帯によって表情を変える風景を、工夫して描くことを目標として示している。 ○ 見慣れた風景も少し視点を変えて捉えることで、印象が変わることを示している。 ○ 生徒自身の言葉や表現意図を具体的に示している。 <p>第2・3学年「風景に思いを重ねて」P6～9</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の気持ちを重ねて作品として表すことを目標に示している。 ○ さまざまな画家の風景画を見て表現方法の工夫を感じ取ることを示している。 ○ 主題設定から制作の過程に至る具体例を示している。 ○ 生徒作品や作者の言葉及び表現意図を示している。 <p>「デザインや工芸など」 第1学年「印象に残るシンボルマーク」P46, 47</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 社会の中で使われているシンボルマークを幅広く示している。 ○ 生徒作品や作者の言葉及び表現意図を示している。 ○ 発想・構想を練るためのアイデアスケッチを複数示している。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「I'm fine」 ○ デザインと社会とのつながりを示す例を示している。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「オリンピック・パラリンピックのシンボルマーク」 <p>第2・3学年「わかりやすく情報を伝える」P60, 61</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 社会の中で使われているピクトグラムを幅広く示している。 ○ 生徒作品や表現意図を示している。 ○ 発想・構想を練るためのアイデアスケッチを示している。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「オリンピックのピクトグラム『トライアスロン』」 ○ デザインと社会とのつながりを示す例を示している。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「津波から命を守るデザイン」
<p>日文</p>	<p>【作品等や造形活動の示し方と具体例】 「絵や彫刻など」 第1学年「あなたなりの視点で描く なぜか気になる情景」P16, 17</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 何気ない情景の中に自分なりの視点で見つけた情景の表現方法の工夫を示している。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「気になるところを見つけたら」 ○ 生徒作品や作者の言葉及び表現意図を示している。 <p>第2・3学年 上「新鮮な見方で風景を描く 視点の冒険」P12, 13</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 様々な視点で捉えた作品を示している。 ○ 視点の違いによって印象が変化することを示している。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「こんな見方があったんだ」 ○ 生徒作品や作者の言葉及び表現意図を示している。

日文

- 2・3学年 下「光に気持ちを重ねて描く きらめき ゆらめき」 P20, 21
- 光の効果や美しさにポイントを絞った作品を掲載し、情景の印象の違いを問いかけている。
 - 同じ場所でも時間や季節の変化による光と空気を捉えることで、風景が同じ表情を見せないことを示している。
 - ・ 「時の移ろいをとらえる」
 - 生徒の言葉及び表現意図を示している。

「デザインや工芸など」

- 第1学年 「イメージを形や色彩で伝える 印象に残るシンボルマーク」 P44, 45
- 社会の中で使われているロゴマークを幅広く取り上げ、表現意図とともに示している。
 - 生徒作品や作者の言葉及び表現意図を示している。
 - 学習の流れに沿って、活動を促すコメントを示している。
 - ・ 「地域のマークを調べてみよう」
 - ・ 「自分や身近なもののマークを考えよう」
 - デザインと社会のつながりの例を示している。
 - ・ 「地域のマークを調べてみよう」

第2・3学年 上「単純化・強調で情報を整理する ひと目で伝えるための工夫」 P38, 39

- 社会の中で使われているピクトグラムを幅広く取り上げ、表現意図とともに示している。
- 生徒作品や作者の言葉及び表現意図を示している。
- 「造形的な視点」が示してある。
 - ・ 「わかりやすい、親しみのあるピクトグラムの特徴は何だろう。」
- 学習の流れに沿って、活動を促すコメントを示している。
 - ・ 「駅や空港のピクトグラムの特徴は何だろう」
 - ・ 「ピクトグラムの意味を考えよう」
 - ・ 「身近なピクトグラムをつくろう」
- デザインと社会のつながりの例を示している。

第2・3学年 下「中身や気持ちを工夫して表す 魅力を伝えるパッケージ」 P38, 39

- 形や色彩, 質感などに着目し, 伝える目的や条件などをもとにデザインを工夫することを示している。
- 既存のパッケージを調査し, 商品の魅力を伝えるための作品づくりの工程を示している。
 - ・ 「お菓子のパッケージをつくってみよう」
- 昔から使われてきた水引に, 贈る人のお祝いの気持ちが込められていることを示している。
 - ・ 「思いを結ぶ水引」

【美術】

観 点	言語活動の充実
視 点	⑨表現及び鑑賞の活動における言語活動の工夫
方 法	○発想や構想, 鑑賞の場面における言語活動の示し方と具体例

発行者	調査・研究内容
開隆堂	<p>【言語活動の示し方と具体例】</p> <p>「発想・構想の場面」</p> <p>第1学年「あったらいいなを形に」P34, 35</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ デザイナー本人の言葉をインタビュー形式で掲載し, デザインのこだわりや思いを言語メッセージとして示している。 <ul style="list-style-type: none"> ・ インタビュー佐藤オオキ <p>第1学年「ロゴマークで印象づける」P40, 41</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「学習のポイント」に, 対話を促す記述がある。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「身のまわりのロゴタイプやシンボルマークを調べて, 形や色彩の工夫について話し合ってみよう。」 ○ 発想段階での情報収集, 分析過程において, 対話をしながらスケッチに書きためる作業例を示している。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「クラスのシンボルマークをデザインしよう」 <p>第2・3学年「安心と安全のデザイン」P76, 77</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 身のまわりにあるデザインの例や生徒の作品, アイデアスケッチ及びコメントを記載したワークシートを例示し, 発想・構想の方法を示している。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「ドア開閉安全マーク」 ○ グループで身近な課題を発見し, デザインの力で解決する言語活動を伴う活動例を示している。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「校内の安全を考えよう」 ○ 「学習のポイント」に, 対話を促す記述がある。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「伝わりやすいデザインの条件とは何か話し合ってみよう。」 <p>「鑑賞の場面」</p> <p>第1学年「見ることからの発見」P10, 11</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 作家や生徒の作品を掲載するとともに, 表現意図や作者の言葉を示している。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「家族がくれた大事なポーチです。布の柔らかい感じを表しました。」 <p>第2・3学年「ポスターで伝える」P66, 67</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 作家や生徒の作品を掲載するとともに, 表現意図や作者の言葉を示している。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「川をきれいにして, 清流にすむカワセミを呼びたいと思いました。輝いているように水しぶきを多く描きました。」 ○ 「学習のポイント」に, 対話を促す記述がある。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「伝わりやすいポスターの条件とは何か話し合ってみよう。」

<p>光村</p>	<p>【言語活動の示し方と具体例】 「発想・構想の場面」 第1学年 ○ 生徒作品に作者の言葉を掲載し、発想のヒントや作品の意図、作者の思いが分かるようにしている。 第2・3学年「みんなのためのデザイン」P62, 63 ○ 身の回りにあるデザインの例や生徒の作品を掲載し、目的に応じた機能やデザインについて説明している。 ○ 生徒作品及び改良点などを示した企画書等を例示し、発想・構想の方法を示している。 ・ 「しよるじょー」</p> <p>「鑑賞の場面」 第1学年「美術で学ぶこと」P8, 9 ○ 「ノートやスケッチブックを活用しよう」のページを設け、鑑賞後や作品完成後の振り返り例を「発想ノート」として具体的に示している。 ・ 「考えをまとめる」 第1学年「世界の仮面と出会う」P56, 57 ○ 世界各国の仮面を鑑賞し、違いや共通点について対話を促す記述がある。 ・ 「さまざまな国の仮面の、違いや似ている点を話し合おう。」 第2・3学年「発想を広げる」P76, 77 ○ 「発想を広げる」のページを設け、様々な発想法を示すとともに、言語活動を使った例を複数示している。 ・ 「話し合ってみ方や考え方を広げる」</p>
<p>日文</p>	<p>【言語活動の示し方と具体例】 「発想・構想の場面」 第1学年「発想・構想の手立て」P58, 59 ○ 「発想・構想の手立て」のページを設け、アーティストが創作活動をする際の具体的な言語活動を示している。 ・ 「どうやって構想するんだろう？」 第2・3学年 上「使う人の立場で考える 暮らしやすさのデザイン」P44, 45 ○ 「造形的な視点」を吹き出しで示すことで、対話を促している。 ・ 「形をどのように機能に生かしているだろうか。」 ○ 観察レポートを掲載し、どのような工夫がされているかを示している。 ・ 「プラスアルファのあるデザイン」 ○ 身の回りにあるデザインの例や生徒の作品を掲載し、目的に応じた機能やデザインについて説明している。 ・ 「ポンプ式ハミガキ粉」 ○ 生徒作品及び企画書等を掲載し、発想・構想の方法を示している。 ・ 「星のキシゴム」</p>

<p>日文</p>	<p>「鑑賞の場面」</p> <p>第1学年「探して、感じて、語り合っ 絵の中をよく見ると」P30, 31</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本文に、作品から作者の意図や工夫を読み取り、対話を促す記述がある。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「自分も物語の中に入ったつもりで想像をめぐらせながら、絵を味わい、人物の表情や視線などから作者の意図と工夫を読み取り、話し合ってみましょう。」 <p>第2・3学年 上「イメージの力で伝える その一枚が人を動かす」P40, 41</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「造形的な視点」を吹き出しで示すことで、対話を促している。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「わかりやすいポスターは、どこに工夫があるのだろうか。」 ○ 作家や生徒の作品を掲載するとともに、表現意図や「作者の言葉」を示している。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「生命力のある植物を未来にたとえ、その一つ一つが『Piece』であり、集まって一つの顔を表しています。」
-----------	---